

「エツクス」線量計檢定規則

昭和十二年八月
逓信省令第五十二號

第一條 「エツクス」線ノ測定ニ使用スル「エツクス」線量計(以下線量計ト稱ス)ノ檢定ハ本令ニ依リ之ヲ行フ

第二條 本令ニ於テ線量計ト稱スルハ「エツクス」線量ノ單位タル「レントゲン」又ハ「エツクス」線ノ強サノ單位タル毎分レントゲンヲ以テ目盛ラレタルモノヲ謂フ

第三條 「エツクス」線量ノ單位タル「レントゲン」ハ溫度攝氏零度、氣壓水銀柱七十六センチメートルノトキ二次電子ヲ完全ニ利用シ電離槽壁ノ影響ヲ除キタル状態ニ於テ飽和電流ノ下ニ空氣一立方センチメートルニ付一クーロムノ三十億分ノ一ノ電荷ヲ生ゼシムル「エツクス」線量ヲ謂フ

第四條 檢定ヲ行ヒタル線量計左ノ各號ニ該當スルトキハ之ヲ合格トス

- 一 逓信大臣ノ承認シタル型式ニ適合スルモノ
- 二 逓信大臣ノ告示スル試驗ニ關スル條件ニ適

合スルモノ
前項第一號ノ型式ヲ有セザル線量計ト雖モ特別ノ事由アル場合ニ於テハ特殊ノ試驗ヲ行ヒ之ヲ合格ト爲スコトヲ得

第五條 型式承認ヲ受ケントスル者ハ型式承認申請書(第一號書式)ニ試験品二箇竝ニ其ノ説明書及圖面ヲ添ヘ電氣試驗所ニ提出スベシ
承認ヲ經タル型式ノ主要部分ニ非ザル部分ヲ變更シテ更ニ型式承認ヲ受ケントスル者ハ型式追加承認申請書(第二號書式)ニ試験品一箇竝ニ其ノ變更事項ヲ記載シタル書類及圖面ヲ添ヘ電氣試驗所ニ提出スベシ
電氣試驗所ニ於テ必要アリト認ムルトキハ試験品ヲ追加提出セシムルコトアルベシ

第六條 逓信大臣ハ製品ノ實績ニ因リ必要アリト認メタルトキハ其ノ型式承認ヲ取消スコトアルベシ

第七條 逓信大臣型式承認ヲ爲シ又ハ其ノ取消ヲ爲シタルトキハ之ヲ告示ス

第八條 檢定ヲ受ケントスル者ハ檢定申請書(第三號書式)ニ現品ヲ添ヘ電氣試驗所ニ提出スベシ

第四條第二項ノ特殊試験検定ヲ受ケントスル者ハ特殊試験検定申請書(第四號書式)ニ現品並ニ其ノ説明書及圖面ヲ添ヘ電気試験所ニ提出スベシ

第九條 検定ニ合格シタル線量計ニハ検定票ヲ附シ其ノ申請者ニ檢定合格證書(第五號書式)ヲ交付ス
前項ノ檢定票ノ雛形ハ左ノ如シ



直徑約三センチメートル
上段ノ數字ハ檢定番號ヲ表シ、下段ノ數字ハ有效期間満了ノ年月日ヲ表ス

第十條 檢定ノ有効期間ハ檢定合格證書ノ日附ヨリ五年トス但シ第四條第一項第二號ノ試験條件ニ適合セザルニ至リタルトキハ檢定ハ其ノ效力ヲ失フ
第十一條 型式承認又ハ檢定ノ申請ヲ爲サントスル者ハ左ノ區別ニ從ヒ手数料ヲ納付スベシ

- 一 型式承認ノ申請ヲ爲ストキ 一件ニ付 金百圓
- 二 型式追加承認ノ申請ヲ爲ストキ 一件ニ付 金三十圓
- 三 檢定ノ申請ヲ爲ストキ 一箇ニ付 金六十圓
- イ 基本手数料
- ロ 附加手数料
- 四 第四條第二項ノ檢定ノ申請ヲ爲ストキ 試驗點一點ニ付 金四圓
- 前項ノ手数料ノ二倍
- 第十二條 檢定合格證書ヲ亡失又ハ毀損シタル者ハ其ノ再交付ヲ申請スルコトヲ得
- 第十三條 第五條又ハ第八條ニ依リ申請ヲ爲シタル場合線量計ノ運搬ニ要スル費用及試験ニ因リテ生ジタル損害ハ申請者ノ負擔トス
- 第十四條 檢定票又ハ檢定合格證書ニ關シ不正ノ

所爲アリタル者ハ百圓以下ノ罰金又ハ科料ニ處ス

附則 本令ハ昭和十二年九月一日ヨリ之ヲ施行ス

第一號書式(用紙美濃紙)

収入印紙	「エックス」線量計型式承認申請書	金何圓
一品名	貼附シタル収入印紙ノ額	
二型		
三 使用範圍		
四 製造者ノ名稱及住所	輸入品又ハ移入品ニ在リテハ輸入者又ハ移入者ノ名稱及住所ヲ附記スベシ	
五 提出箇數		
六 製造番號		
右「エックス」線量計檢定規則第五條第一項ニ依リ「エックス」線量計型式承認ヲ申請候也		
年 月 日	住所	
遞信大臣宛	申請者名	(印)
	(法人ニ在リテハ其ノ代表者ノ氏名ヲ附記スベシ)	

第二號書式(用紙美濃紙)

印紙	收入	「エックス」線量計型式追加承認申請書	金何圓
	収入	貼附シタル収入印紙ノ額	
一品名	一 型	使用範圍	
製造者ノ名稱及住所	二 型	製造者ノ名稱及住所 <small>輸入品又ハ移入品ニ在リテハ輸入者又ハ移入者ノ名稱及住所ヲ附記スベシ</small>	
型式番號	三	型式承認ノ年月日及番號	
檢定範圍	四	提出箇數	
試驗點	五	製造番號	
右「エックス」線量計檢定規則第五條第二項ニ依リ「エックス」線量計型式追加承認ヲ申請候也	六	住所	
年 月 日	七	申請者名 <small>(印)</small> <small>(法人ニ在リテハ其ノ代表者ノ氏名ヲ附記スベシ)</small>	
遞信大臣宛			

第三號書式(用紙美濃紙)

印紙	收入	「エックス」線量計檢定申請書	金何圓
	収入	貼附シタル収入印紙ノ額	
一品名	一 型	製造者ノ名稱及住所	
製造者ノ名稱及住所	二 型	型式番號	
型式番號	三	檢定範圍	
檢定範圍	四	試驗點	
試驗點	五	右「エックス」線量計檢定規則第八條第一項ニ依リ「エックス」線量計ノ檢定ヲ申請候也	
年 月 日	六	住所	
遞信大臣宛	七	申請者名 <small>(印)</small> <small>(法人ニ在リテハ其ノ代表者ノ氏名ヲ附記スベシ)</small>	

第四號書式(用紙美濃紙)

収入印紙

「エックス」線量計特殊試験検定申請書
貼附シタル収入印紙ノ額

金何圓

- 一 品名
 - 二 型
 - 三 製造者ノ名稱及住所輸入品又ハ移入品ニ在リテハ輸入者又ハ移入者ノ名稱及住所ヲ附記スベシ
 - 四 製造番號
 - 五 検定範圍
 - 六 試験點
 - 七 型式承認ヲ受クルコト能ハザル事由
- 右「エックス」線量計検定期則第八條第二項ニ依リ「エックス」線量計ノ特殊試験検定ヲ申請候也

年 月 日

住所

申請者名 (印)

(法人ニ在リテハ其ノ代表者ノ氏名ヲ附記スベシ)

逓信大臣宛

第五號書式(特殊試験検定ニ在リテハ欄外ニ「特殊試験検定」ト朱記ス)

「エックス」線量計検定合格證書

検定申請者

検定番號	品名
型	製造者ノ名稱及住所
製造番號	型式番號
検定範圍	
試験點	
有効期間	自昭和 年 月 日 至昭和 年 月 日

本「エックス」線量計ハ「エックス」線量計検定期則第四條ノ検定ニ合格シタルコトヲ證ス

昭和 年 月 日

逓信省 (印)

更正表

「エツクス」線量計檢定規則

第四條第一項第二號ノ試験

ニ關スル件

昭和十二年十二月
逓信省告示第四百六十八號

「エツクス」線量計檢定規則第四條第一項第二號ノ試験ニ關スル條件左ノ通定ム

- 一、「エツクス」線計量(以下線量計ト稱ス)ノ動作ハ左ノ各號ニ適合スルモノタルベシ
- イ、「エツクス」線ニ因ル空氣ノ電離作用ヲ利用シタルモノ
- ロ、線量計中ノ所定ノ箇所以外ニ於テハ電離電流ヲ生ゼザルモノ
- ハ、飽和電離電流ヲ利用シタルモノ
- ニ、「ラヂウム」ノ使用又ハ其ノ他ノ方法ニ依リ線計量ノ定數又ハ目盛ヲ更正シ得ルモノ
- 二、線計量ハ其ノ外函其ノ他適當ノ箇所ニ左ノ事項ヲ表示シタルモノタルベシ

- イ、品名及型
- ロ、製造者名
- ハ、製造番號
- ニ、型式番號
- 三、線量計ハ檢定ノ際其ノ誤差百分ノ四ヲ超エズ且檢定ノ有効期間内ニ於テ其ノ誤差百分ノ八ヲ超エザルモノタルベシ
- 四、線量計ノ檢定ニ於ケル檢定範圍ハ型式承認ニ於テ指定シタル試験點二點以上ヲ有スルモノタルベシ、但シ絞リ又ハ其ノ他ノ方法ニ依リ二以上ノ使用範圍ヲ有スルモノニ在リテハ使用セントスル使用範圍毎ニ前段ノ試験點ヲ有スルコトヲ要ス
- 五、線量計ノ檢定ニ於ケル試験點ハ型式承認ニ於テ指定シタル試験點中檢定範圍内ノ各點タルベシ
- 六、線量計ノ特殊試験檢定ニ於ケル檢定範圍及試験點ニ關シテハ前二項ノ規定ヲ準用ス

第七篇 其ノ他

公益法人監督關係

逓信大臣主管公益法人ノ設立及監督ニ關スル規則

(大正二年九月逓信省令第九十號)

會社利益配當及資金融通關係

國家總動員法抄

(昭和十三年四月法律第五十五號)

會社利益配當及資金融通令

(昭和十四年四月勅令第七十九號)

會社利益配當及資金融通令施行細則

(昭和十四年四月閣令第六號)

會社利益配當及資金融通令施行細則第六條、第七條又ハ第九條第一號若ハ第四號

ノ規定ニ依リ提出スベキ報告書及添附書類ニ關スル件

(昭和十四年五月逓信、大藏省告示第一號)

遞信大臣主管公益法人ノ 設立及監督ニ關スル規則

大正二年九月
遞信省令第九十號

〔沿革〕 昭和十年三月省令第八號改正

明治四十三年三月遞信省令第五十六號遞信大臣ノ
主管ニ屬スル公益法人ノ設立及監督ニ關スル規則
左ノ通改正ス

第一條 民法第三十四條ニ依リ遞信大臣ノ許可ヲ
得テ法人ヲ設立セムトスル者ハ社團ニ在リテハ
定款、資産ノ種類及總額並社員ノ員數、財團ニ
在リテハ寄附行爲並資産ノ種類及總額ヲ具シ遞
信大臣ニ申請スベシ

第二條 法人ハ其ノ設立ノ日ヨリ二週間内ニ左ニ
掲グル事項ヲ遞信大臣ニ届出ヅベシ第一號ノ事
項ニ付變更ヲ生ジタル場合亦同ジ

- 一 理事及監事ノ氏名、住所
- 二 財産目録

第三條 法人ハ前年末ノ現在ニ依リ毎年初ノ一月

内ニ左ニ掲グル事項ヲ遞信大臣ニ届出ヅベシ
但シ特ニ事業年度ヲ設クルモノニ在リテハ毎年
度末ノ現在ニ依リ翌年度ノ初ノ一月内ニ之ヲ届
出ヅベシ

- 一 法人ノ目的タル事業ノ狀況
- 二 財産目録及收支計算表

社團法人ニ在リテハ前項ニ掲グル事項ノ外社員
ノ員數ヲ届出ヅベシ前二項ノ規定ニ依ル届出ハ
遞信大臣ヨリ補助金ノ支給ヲ受クル法人ニシテ
命令書ノ規定ニ依リ之ト同一ノ事項ヲ届出ヅル
場合ニ於テハ之ヲ省略スルコトヲ得

第四條 法人ノ設立者又ハ法人ヨリ遞信大臣ニ差
出ス願書又ハ届書ハ特ニ指定スルモノヲ除クノ
外其ノ主タル事務所所在地ノ遞信局長ヲ經由ス
ベシ

附 則

本令ハ大正二年十月一日ヨリ之ヲ施行ス

國家總動員法抄

昭和十三年四月
法律第五十五號

因リ懲役及罰金ヲ併科スルコトヲ得

第三十八條 左ノ各號ノ一ニ該當スル者ハ千圓以

下ノ罰金ニ處ス

三 第三十一條ノ規定ニ依ル報告ヲ怠リ又ハ虛

偽ノ報告ヲ爲シタル者

第四十二條 第三十一條ノ規定ニ依ル該官吏ノ

検査ヲ拒ミ、妨ゲ又ハ忌避シタル者ハ六月以下

ノ懲役又ハ五百圓以下ノ罰金ニ處ス

第四十八條 法人ノ代表者又ハ法人若ハ人ノ代理

人、使用人其ノ他ノ從業者其ノ法人又ハ人ノ業

務ニ關シ第三十二條乃至第三十四條、第三十六

條第二號、第三十七條、第三十八條又ハ第四十

三條前段ノ違反行爲ヲ爲シタルトキハ行爲者ヲ

罰スルノ外其ノ法人又ハ人ニ對シ各本條ノ罰金

刑又ハ科料刑ヲ科ス

第四十九條 前條ノ規定ハ本法施行地ニ本店又ハ

主タル事務所ヲ有スル法人ノ代表者、代理人、

使用人其ノ他ノ從業者ガ本法施行地外ニ於テ爲

シタル行爲ニモ之ヲ適用ス本法施行地ニ住所ヲ

有スル人ノ代理人、使用人其ノ他ノ從業者ガ本

法施行地外ニ於テ爲シタル行爲ニ付亦同ジ

第十一條 政府ハ戰時ニ際シ國家總動員上必要アルトキハ勅令ノ定ムル所ニ依リ會社ノ設立、資本ノ増加、合併、目的變更、社債ノ募集若ハ第二回以後ノ株金ノ拂込ニ付制限若ハ禁止ヲ爲シ會社ノ利益金ノ處分、償却其ノ他經理ニ關シ必要ナル命令ヲ爲シ又ハ銀行、信託會社、保險會社其ノ他勅令ヲ以テ指定スル者ニ對シ資金ノ運用ニ關シ必要ナル命令ヲ爲スコトヲ得

第三十一條 政府ハ國家總動員上必要アルトキハ命令ノ定ムル所ニ依リ報告ヲ徵シ又ハ當該官吏ヲシテ必要ナル場所ニ臨檢シ業務ノ狀況若ハ帳簿書類其ノ他ノ物件ヲ検査セシムルコトヲ得

第三十四條 左ノ各號ノ一ニ該當スル者ハ二年以下ノ懲役又ハ三千圓以下ノ罰金ニ處ス

一 第十一條ノ規定ニ依ル制限若ハ禁止又ハ命令ニ違反シタル者

第三十五條 前三條ノ罪ヲ犯シタル者ニハ情狀ニ

本法ノ罰則ハ本法施行地外ニ於テ罪ヲ犯シタル帝國臣民ニモ之ヲ適用ス

會社利益配當及資金融通

令

昭和十四年四月
勅令第七十九號

第一條 國家總動員法第十一條ノ規定ニ依リ會社ノ利益金ノ處分償却其ノ他ノ經理ニ關スル命令及銀行ニ對スル資金ノ運用ニ關スル命令ニ付テハ本令ノ定ムル所ニ依ル

第二條 資本金（出資總額、株金總額、出資總額及株金總額ノ合計額又ハ基金總額ヲ謂フ以下同ジ）二十萬圓以上ノ會社ハ主務大臣ノ許可ヲ受ケルニ非ザレバ基準配當率ヲ超ユル率ニ依リ毎事業年度ノ利益配當（基金利息又ハ基金配當ヲ含ム以下同ジ）ヲ爲スコトヲ得ズ但シ左ノ各號ノ一ニ該當スル場合ハ此ノ限ニ在ラズ

一 基準配當率ニ年百分ノ一（一年ヲ一事業年度トスルモノニ在リテハ年百分ノ二）以下ヲ加ヘタル率ニ依ルトキ但シ配當率ハ年百分ノ十ヲ超ユルコトヲ得ズ

二 年百分ノ六以下ノ率ニ依ルトキ

第三條 本令ニ於テ基準配當率トハ左ノ各號ニ規定スル率ヲ指シタルモノトシテ得

第四條 資本金二十萬圓未滿タリシ會社（資本金二十萬圓以上ノ會社本令施行後資本減少ニ因リ資本金二十萬圓未滿ト爲リタルモノヲ含ム）ニシテ本令施行後ノ資本増加ニ因リ資本金二十萬圓以上ト爲リタルモノニ在リテハ會社ノ申請ニ依リ主務大臣ガ從前ノ利益配當ノ實情ニ基キ認定シタル率

會社ガ前條ノ規定ニ基キ基準配當率ヲ超ユル率ニ依リ利益配當ヲ爲シタルトキハ其ノ率ガ年百分ノ十以下ナル限リ其ノ率ヲ以テ爾後ノ基準配當率トス但シ主務大臣ガ前條ノ規定ニ基キ許可ヲ爲スニ際シ基準配當率ニ算入セザル旨ヲ定メタル部分ヲ除ク

會社ガ基準配當率ニ滿タザル率ニ依リ利益配當ヲ爲シタルトキト雖モ其ノ會社ノ基準配當率ハ之ヲ變更セズ

七篇 會社利益配當及資金融通關係

定スル率ヲ謂フ

一 昭和十三年十一月三十日以前一年以内ニ利益配當ヲ決定シタル會社ニ在リテハ第三號又ハ第四號ニ該當スル場合ヲ除キ同日以前ニ最終ニ決定シタル利益配當ノ年率但シ當該利益配當ニ際シ普通ノ配當ノ外記念配當、特別配當其ノ他名稱ノ有無ヲ問ハズ特別ノ配當ヲ爲シタル會社ニ在リテハ其ノ申請ニ依リ主務大臣ガ臨時ニ配當ヲ増加シタルモノト認定シタル部分ヲ除ク

二 昭和十三年十一月三十日以前一年以内ニ利益配當ヲ決定シタルコトナキ會社ニ在リテハ第三號又ハ第四號ニ該當スル場合ヲ除キ年百分ノ六

三 合併ニ因リ設立セラレタル會社又ハ合併後存續スル會社ニシテ昭和十三年十一月三十日以前一年以内ニ合併後ノ利益配當ヲ決定シタルコトナキモノ（合併ガ昭和十二年十一月三十日以前ニ爲サレタル會社ヲ除ク）ニ在リテハ會社ノ申請ニ依リ主務大臣ガ合併前ノ各會社ノ利益配當ノ實情ニ基キ認定シタル率

當率ヲ指定スルコトヲ得

第五條 第二條第一號ノ規定ハ基準配當率ガ第三條第一項第二號ノ規定ニ依リ定メラル會社ノ本令施行後ニ於ケル最初ノ利益配當ニ關シテハ之ヲ適用セズ

主務大臣ハ第三條第一項第三號若ハ第四號又ハ前條ノ規定ニ依リ會社ノ基準配當率ノ認定又ハ指定ヲ爲スニ際シ當該認定又ハ指定後ノ最初ノ利益配當ニ關シ第二條第一號ノ規定ヲ適用セザル旨ヲ定ムルコトヲ得

第六條 第二條、第三條又ハ第四條ノ規定ニ依リ許可、認定又ハ指定ニシテ事案ノ重要ナルモノニ付テハ利益配當審査委員會ノ議ヲ經ベシ利益配當審査委員會ニ關スル規程ハ別ニ之ヲ定ム

第七條 會社ハ其ノ經營ヲ堅實ナラシムル爲經理ニ關シ左ノ各號ニ掲グル事項ノ遵守ヲ旨トスベシ

一 經費支出ヲ適正ナラシムルコト
二 利益配當ニ關スル制限其ノ他ノ事由ニ因リ會社ノ經理上生ズベキ餘裕ハ之ヲ必要ナル資産ノ償却又ハ積立金ノ積立ニ充ツルコト

主務大臣ハ必要アリト認ムルトキハ會社ニ對シ前項各號ノ事項ニ關シ勸告ヲ發シ又ハ利益配當審査委員會ノ議ヲ經テ必要ナル命令ヲ爲スコトヲ得

第八條 主務大臣ハ會社ノ資産負債及損益ノ内容、利益金ノ處分其ノ他經理ニ關シ國家總動員法第三十一條ノ規定ニ依リ報告ヲ徵シ又ハ當該官吏ヲシテ必要ナル場所ニ臨檢シ業務ノ狀況若ハ帳簿書類其ノ他ノ物件ヲ検査セシムル事ヲ得前項ノ規定ニ依リ當該官吏ヲシテ臨檢検査セシムル場合ニ於テハ其ノ身分ヲ示ス證票ヲ携帶セシムベシ

第九條 本令ニ於テ主務大臣トアルハ左ノ各號ニ該當スル場合ニ於テ各其ノ定ムル所ニ依ルノ外總テ大藏大臣トス

- 一 特別ノ法令ニ依リ設立セラレタル會社ニ在リテハ當該會社ヲ監督スル所管大臣
- 二 取引所法、瓦斯事業法、保險業法、自動車製造事業法、工作機械製造事業法、製鐵事業法、石油業法、人造石油製造事業法、大正十五年勅令第九號又ハ產金法第三條ノ適用ヲ受

島ニ在リテハ各朝鮮總督、臺灣總督、樺太廳長官又ハ南洋廳長官トス但シ日本勸業銀行、北海道拓殖銀行、朝鮮銀行、臺灣銀行及朝鮮、臺灣又ハ樺太ニ營業所ヲ有シ銀行法又ハ貯蓄銀行法ノ適用ヲ受クル銀行並ニ南洋拓殖株式會社ニ付テハ此ノ限ニ在ラズ

前條中閣令トアルハ朝鮮、臺灣、樺太又ハ南洋群島ニ在リテハ總督府令又ハ廳令トス朝鮮、臺灣、樺太又ハ南洋群島ニ在リテハ利益配當審査委員會ニ關スル規定ヲ適用セズ

第十二條 大藏大臣生産力擴充資金其ノ他時局ニ緊要ナル産業資金ノ供給ヲ圓滑ナラシムル爲必要アリト認ムルトキハ日本勸業銀行ニ對シ資金ノ融通又ハ有價證券ノ應募、引受若ハ買入ヲ命ズルコトヲ得

大藏大臣前項ノ規定ニ依ル命令ヲ爲サントスルトキハ資金融通審査委員會ノ議ヲ經ベシ資金融通審査委員會ニ關スル規程ハ別ニ之ヲ定ム

第十三條 政府ハ前條第一項ノ規定ニ依ル命令ニ因リ日本勸業銀行ガ損失ヲ受ケタルトキハ同行

クル事業ノミヲ營ム會社ニ在リテハ商工大臣
三 電氣事業法又ハ航空機製造事業法ノ適用ヲ受クル事業ノミヲ營ム會社ニ在リテハ遞信大臣

四 地方鐵道法、軌道法又ハ自動車交通事業法ノ適用ヲ受クル事業ノミヲ營ム會社ニ在リテハ鐵道大臣

五 會社ノ營ム事業ノ一部ニ付第二號、第三號又ハ第四號ニ掲グル法令ノ適用ヲ受クル會社ニ在リテハ當該所管大臣及大藏大臣

大藏大臣ハ第二條、第三條、第四條又ハ第七條ノ規定ニ依ル許可、認定、指定、勸告又ハ命令ヲ爲サントスルトキハ關係各大臣ニ協議スベシ
大藏大臣以外ノ主務大臣ハ第二條、第三條、第四條又ハ第七條ノ規定ニ依ル許可、認定、指定、勸告又ハ命令ヲ爲サントスルトキハ大藏大臣及關係各大臣ニ協議スベシ

第十條 第二條乃至第五條、第八條及前條ノ規定ニ關シ必要ナル事項ハ閣令ヲ以テ之ヲ定ム

第十一條 第二條乃至第五條、第七條及第八條中主務大臣トアルハ朝鮮、臺灣、樺太又ハ南洋群

ニ對シ通常生ズベキ損失ヲ補償ス
前項ノ損失ヲ決定スル基準其ノ他損失補償ニ關シ必要ナル事項ハ大藏大臣之ヲ定ム

第十四條 前條第一項ノ規定ニ依リ政府ガ日本勸業銀行ニ對シテ支拂フベキ損失補償金ハ國債證券ヲ以テ之ヲ交付スルコトヲ得

前項ノ規定ニ依リ交付スル國債證券ノ交付價格ハ時價ヲ參酌シテ大藏大臣之ヲ定ム

附則
本令ハ昭和十四年四月十日ヨリ之ヲ施行ス

【參照】
昭和十三年四月一法律第五十五號國家總動員法抄錄

第十一條 政府ハ戰時ニ際シ國家總動員上必要アルトキハ勅令ノ定ムル所ニ依リ會社ノ設立、資本ノ増加、合併、目的變更、社債ノ募集若ハ第二回以後ノ株金ノ拂込ニ付制限若ハ禁止ヲ爲シ、會社ノ利益金ノ處分、償却其ノ他經理ニ關シ必要ナル命令ヲ爲シ又ハ銀行、信託會社、保險會社其ノ他勅令ヲ以テ指定スル者ニ對シ資金ノ運用ニ關シ必要ナル命令ヲ爲スコトヲ得

第三十一條 政府ハ國家總動員上必要アルトキハ命令ノ定ムル所ニ依リ報告ヲ徵シ又ハ當該官吏ヲシテ必要ナル場所ニ臨檢シ業務ノ狀況若ハ帳簿書類其ノ他ノ物件ヲ檢査セシムルコトヲ得

昭和十二年八月十一日公布 法律第五十九號產金法抄錄

第三條 金融鍊業ヲ營マントスル者ハ命令ノ定ムル所ニ依リ政府ノ免許ヲ受クベシ業トシテ含金鑛產物ノ買入ヲ爲サントスル者亦同ジ

前項ノ免許ヲ受ケ金製鍊業ヲ營ム者ハ之ヲ金製鍊業者ト稱ス金製鍊業者又ハ第一項ノ規定ニ依リ含金鑛產物ノ買入ノ免許ヲ受ケタル者ニ非ザレバ含金鑛產物ヲ讓受クルコトヲ得ズ但シ命令ヲ以テ定ムル場合ハ此ノ限ニ在ラズ

大正十五年三月六日勅令第九號ハ北樺太ニ於テ石油又ハ石炭ノ掘採ニ關スル事業ヲ營ムコトヲ目的トスル帝國株式會社ニ關スル條件ナリ

會社利益配當及資金融通令施行細則

昭和十四年四月 閣令第六號

第一條 會社利益配當及資金融通令（以下之ヲ利益配當令ト稱ス）第二條ノ規定ニ依リ基準配當率ヲ超ユル率ニ依リ利益配當ヲ爲スニ付主務大臣ノ許可ヲ受ケントスル會社ハ左ニ掲グル事項ヲ記載シタル許可申請書ヲ主務大臣ニ提出スベシ

- 一 會社ノ本店又ハ主タル事務所ノ所在場所、電話番號、商號又ハ名稱及代表者ノ氏名
- 二 會社ノ資本金額及拂込資本金額
- 三 會社ノ營ム事業ノ概要
- 四 會社ノ基準配當率及其ノ決定ノ沿革
- 五 當該利益配當ノ屬スル事業年度前四事業年度ノ利益配當ノ率
- 六 當該利益配當ノ屬スル事業年度
- 七 當該利益配當ノ豫定率及其ノ率ニ依リ利益配當ヲ爲スノ要アル事由
- 八 當該利益配當支拂開始ノ豫定期日

九 當該利益配當ノ屬スル事業年度ニ於テ政府ヨリ補助金、補給金、損失補償金其ノ他ノ交付金ヲ受ケタルトキハ其ノ交付金ノ名稱金額及交付官廳名

十 其ノ他參考ト爲ルベキ事項

前項ノ許可申請書ニハ左ニ掲グル書類ヲ添付スベシ

一 定款及株主又ハ之ニ準ズベキ者ノ名簿

二 當該利益配當ノ屬スル事業年度及其ノ前四事業年度ノ財産目錄、貸借對照表、損益計算書及利益金處分ニ關スル書類

三 當該利益配當ノ屬スル事業年度ノ主ナル收入、支出及資産償却ノ内容ヲ知ルニ足ル書類

四 會社ノ經歷書

第二條 利益配當令第三條第一項第一號ニ該當スル會社ニシテ昭和十三年十一月三十日以前ニ最終ニ決定シタル利益配當ニ際シ普通ノ配當ノ外記念配當、特別配當其ノ他名稱ノ有無ヲ問ハズ特別ノ配當ヲ爲シタルモノハ本令施行後三十日以内ニ左ニ掲グル事項ヲ記載シタル認定申請書ヲ主務大臣ニ提出シ利益配當令第三條第一項第

- 一 號但書ノ臨時ニ配當ヲ増加シタル部分ノ認定ヲ受クベシ
 - 一 會社ノ本店又ハ主タル事務所ノ所在場所、電話番號、商號又ハ名稱及代表者ノ氏名
 - 二 會社ノ資本金額及拂込資本金額
 - 三 會社ノ營業事業ノ概要
 - 四 昭和十三年十一月三十日以前ニ最終ニ決定シタル利益配當ノ率及其ノ決定ノ年月日並ニ當該利益配當ノ屬スル事業年度
 - 五 前號ノ利益配當ノ率ノ中普通以外ノ記念配當、特別配當其ノ他名稱ノ有無ヲ問ハズ特別ノ配當ニ該當スル部分ノ率及其ノ特別ノ配當ヲ爲シタル事由
 - 六 臨時ニ配當ヲ増加シタル部分トシテ認定ヲ受ケントスル部分ノ率
 - 七 昭和十三年十一月三十日以前ニ最終ニ決定シタル利益配當ノ屬スル事業年度前六事業年度ノ利益配當ノ率及其ノ中ニ第五號ニ掲グル特別ノ配當ヲ含ムトキハ其ノ部分ノ率
 - 八 其ノ他參考ト爲ルベキ事項
- 前項ノ認定申請書ニハ左ニ掲グル書類ヲ添附ス

- 一 定款及株主又ハ之ニ準ズベキ者ノ名簿
 - 二 昭和十三年十一月三十日以前ニ最終ニ決定シタル利益配當ノ屬スル事業年度ノ財産目録、貸借對照表、損益計算書及利益金處分ニ關スル書類
 - 三 前號ノ事業年度後本令施行前ニ決算ヲ確定シタル事業年度アルトキハ其ノ事業年度ノ財産目録、貸借對照表、損益計算書及利益金處分ニ關スル書類
 - 四 會社ノ經歷書
- 第三條** 利益配當令第三條第一項第三號ニ該當スル會社ハ當該合併ガ本令施行前ニ爲サレタルモノナルトキハ本令施行後三十日以内ニ、本令施行後ニ爲サレタルモノナルトキハ合併後三十日以内ニ左ニ掲グル事項ヲ記載シタル認定申請書ヲ主務大臣ニ提出シ基準配當率ノ認定ヲ受クベシ
- 一 會社ノ本店又ハ主タル事務所ノ所在場所、電話番號、商號又ハ名稱及代表者ノ氏名
 - 二 會社ノ資本金額及拂込資本金額
 - 三 會社ノ營業事業ノ概要

- 四 會社ガ基準配當率トシテ認定ヲ受ケントスル率及其ノ率ニ依リ認定ヲ受クルノ要アル事由
 - 五 合併前ノ各會社ノ商號又ハ名稱並ニ其ノ資本金額及拂込資本金額
 - 六 合併ノ年月日及合併條件ノ概要
 - 七 合併前ノ各會社ノ基準配當率及其ノ決定ノ沿革
 - 八 合併前ノ各會社ノ合併前六事業年度ノ利益配當ノ率及其ノ中ニ前條第一項第五號ニ掲グル特別ノ配當ヲ含ムトキハ其ノ部分ノ率
 - 九 其ノ他參考ト爲ルベキ事項
- 前項ノ認定申請書ニハ左ニ掲グル書類ヲ添付ス
- 一 定款及株主又ハ之ニ準ズベキ者ノ名簿
 - 二 合併契約書ノ謄本
 - 三 合併前ノ各會社ノ定款
 - 四 合併前ノ各會社ノ合併前最終ノ事業年度ノ財産目録、貸借對照表、損益計算書及利益金處分ニ關スル書類
 - 五 合併後ニ於ケル事業收支目論見書但シ合併

- 後本令施行前ニ決算ヲ確定シタル事業年度アルトキハ其ノ事業年度ノ財産目録、貸借對照表、損益計算書及利益金處分ニ關スル書類
 - 六 合併前ノ各會社ノ經歷書
- 第四條** 利益配當令第三條第一項第四號ニ該當スル會社ハ資本増加後三十日以内ニ左ニ掲グル事項ヲ記載シタル認定申請書ヲ主務大臣ニ提出シ基準配當率ノ認定ヲ受クベシ
- 一 會社ノ本店又ハ主タル事務所ノ所在場所、電話番號、商號又ハ名稱及代表者ノ氏名
 - 二 會社ノ資本増加前ノ資本金額及拂込資本金額
 - 三 資本増加ノ年月日並ニ増加資本金額及其ノ第一回ノ拂込金額
 - 四 會社ノ營業事業ノ概要
 - 五 會社ガ基準配當率トシテ認定ヲ受ケントスル率及其ノ率ニ依リ認定ヲ受クルノ要アル事由
 - 六 資本増加前六事業年度ノ利益配當ノ率及其ノ中ニ第二條第一項第五號ニ掲グル特別ノ配當ヲ含ムトキハ其ノ部分ノ率
 - 七 其ノ他參考トナルベキ事項

前項ノ認定申請書ニハ左ニ掲グル書類ヲ添附スベシ

- 一 定款及株主又ハ之ニ準ズベキ者ノ名簿
- 二 資本増加前最終ノ事業年度ノ財産目録、貸借對照表、損益計算書及利益金處分ニ關スル書類
- 三 資本増加後ニ於ケル事業收支目論見書
- 四 會社ノ經歷書

第五條 優先株其ノ他利益配當ニ付差別アル數種ノ株式ヲ發行スル會社ニ在リテハ前四條ノ申請書ニ記載スベキ基準配當率又ハ利益配當ノ率ハ株式ノ種類毎ニ記載スベシ

第六條 本令施行ノ際現ニ資本金二十萬圓以上ノ會社ハ本令施行後六十日以内ニ左ニ掲グル事項ヲ記載シタル報告書ヲ主務大臣ニ提出スベシ但シ本令施行後六十日以内ニ第一條、第二條、第三條又ハ第四條ノ規定ニ依リ許可又ハ認定申請書ヲ提出シタル會社ヲ除ク

- 一 會社ノ本店又ハ主タル事務所ノ所在場所、電話番号、商號又ハ名稱及代表者ノ氏名
- 二 會社ノ資本金額及拂込資本金額

第七條 資本金二十萬圓以上ノ會社ハ每事業年度ノ決算確定後三十日以内ニ左ニ掲グル事項ヲ記載シタル報告書ヲ主務大臣ニ提出スベシ

- 三 會社ノ營ム事業ノ概要
- 四 昭和十三年十一月三十日以前一年以内ニ最終ニ決定シタル利益配當ノ率
- 前項ノ報告書ニハ左ニ掲グル書類ヲ添附スベシ
- 一 定款及株主又ハ之ニ準ズベキ者ノ名簿
- 二 本令施行前最終ノ事業年度ノ財産目録、貸借對照表、損益計算書及利益金處分ニ關スル書類
- 三 會社ノ經歷書

第七條 資本金二十萬圓以上ノ會社ハ每事業年度ノ決算確定後三十日以内ニ左ニ掲グル事項ヲ記載シタル報告書ヲ主務大臣ニ提出スベシ

- 一 會社ノ本店又ハ主タル事務所ノ所在場所、電話番号、商號又ハ名稱及代表者ノ氏名
- 二 會社ノ資本金額及拂込資本金額
- 三 當該事業年度ノ基準配當率及利益配當ノ率
- 前項ノ報告書ニハ左ニ掲グル書類ヲ添附スベシ
- 一 當該事業年度ノ財産目録、貸借對照表、損益計算書及利益金處分ニ關スル書類
- 二 當該事業年度ノ主ナル收入、支出及資産償却ノ内容ヲ知ルニ足ル書類

第八條 第五條ノ規定ハ前二條ノ報告書ニ記載スベキ基準配當率又ハ利益配當ノ率ニ關シ之ヲ準用ス

第九條 資本金二十萬圓以上ノ會社ハ左ノ各號ノ一ニ該當スル場合ニ於テハ其ノ都度其ノ旨ヲ記載シタル報告書ヲ主務大臣ニ提出スベシ

- 一 會社ノ本店又ハ主タル事務所ノ所在場所、商號又ハ名稱及代表者ニ變更アリタルトキ
- 二 資本減少ニ因リ資本金二十萬圓未滿ノ會社ト爲サントスルトキ
- 三 基準配當率ガ年百分ノ十以上ナル場合ニ於テ資本増加ニ因リ現在ノ資本金ノ倍額ヲ超ユル資本金ノ會社ト爲サントスルトキ
- 四 解散(合併ニ因ル解散ヲ除ク)シタルトキ

第十條 第一條、第二條、第三條、第四條、第六條、第七條又ハ第九條ノ規定ニ依リ會社ノ提出スベキ申請書又ハ報告書及之ニ添附スベキ書類ハ各二通ヲ提出スベシ但シ利益配當令ニ規定スル主務大臣三以上アル會社ニ在リテハ主務大臣ノ數ニ相當スル通數トス

第十一條 主務大臣必要アリト認ムルトキハ會社ヲ指定シ其ノ第一條、第二條、第三條、第四條、第六條、第七條又ハ第九條ノ規定ニ依リ提出スベキ申請書又ハ報告書及之ニ添附スベキ書類ニ關シ別段ノ指示ヲ爲スコトヲ得

第十二條 利益配當令第九條第一項第五號ニ該當スル會社ニ在リテハ第一條、第二條、第三條、第四條、第六條、第七條又ハ第九條ノ規定ニ依リ提出スベキ申請書又ハ報告書ハ之ヲ同號ニ定ムル主務大臣連名宛ニ作成シ同令第九條第一項第二號、第三號又ハ第四號ニ掲グル主務大臣ニ提出スベシ

前項ノ會社ニ付利益配當令第九條第一項第二號、第三號又ハ第四號ニ掲グル主務大臣二以上アルトキハ前項ノ申請書又ハ報告書ハ之ヲ會社ノ營ム事業ノ中主タルモノニ關スル主務大臣ニ

提出スベシ

提出スベシ

提出スベシ

提出スベシ

提出スベシ

提出スベシ

提出スベシ

提出スベシ

提出スベシ

提出スベシ

差出スベシ

第十三條 利益配當令第九條第二項又ハ第三項ノ

規定ニ依リ主務大臣ノ協議スベキ關係各大臣ハ左ニ掲グル大臣トス

一 會社ノ營ム事業ニ付特別ノ法令ノ適用ヲ受ケ其ノ經營ニ付政府ノ監督ヲ受クル會社ニ在リテハ當該所管大臣

二 會社ノ營ム事業ニ付政府ヨリ補助金、補給金、損失補償金其ノ他ノ交付金ヲ受ケ其ノ經營ニ付政府ノ監督ヲ受クル會社ニ在リテハ當該所管大臣

三 會社ニ屬スル工場又ハ事業場ニ付工場事業場管理令、陸軍軍需監督官令又ハ造船造兵監督官令ニ依リ陸軍大臣又ハ海軍大臣ノ管理又ハ會計經理ノ監督ヲ受クル會社ニ在リテハ當該所管大臣

四 前各號ニ掲グルモノノ外特ニ必要アリト認ムル會社ニ在リテハ其ノ營ム事業ノ所管大臣

附則

本令ハ昭和十四年四月十日ヨリ之ヲ施行ス

會社利益配當及資金融通令施行細則第六條、第七條又ハ第九條第一號若ハ第四號ノ規定ニ依リ提出スベキ報告書及添附書類ニ關スル件

昭和十四年五月
逕信省告示第一號
大藏省

電氣事業法又ハ航空機製造事業法ノ適用ヲ受クル事業ヲ營ム會社ハ別段ノ指示アリタル場合ヲ除クノ外當該法律又ハ之ニ基キテ發スル命令ノ定ムル所ニ依リ提出スベキ書類ヲ以テ會社利益配當及資金融通令施行細則第七條又ハ第九條第一號若ハ第四號ノ規定ニ依リ提出スベキ報告書及添附書類ニ代フルコトヲ得

主トシテ電氣事業法第一條第二項ノ事業ヲ營ム會社ハ會社利益配當及資金融通令施行細則第六條ノ規定ニ依リ提出スベキ報告書及添附書類ニ付テモ亦前項ノ例ニ依ルコトヲ得

附 錄

土地收用法

河 川 法

道 路 法

(昭和六年四月法律第五十三號改正)

(昭和九年三月法律第二十號改正)

(大正十一年三月法律第三號改正)

土地收用法

明治三十三年三月
法律第二十九號
大正三年三月
法律第十五號改正
昭和二年四月
法律第三十九號改正
昭和六年四月
法律第五十三號改正

第一章	總則
第二章	事業ノ準備
第三章	事業ノ認定
第四章	收用ノ手續
第五章	收用ノ審査會
第六章	損失ノ補償
第七章	收用ノ效果
第八章	費用ノ負擔
第九章	監督、強制及罰則
第十章	附則 訴訟願及訴訟

土地收用法

附錄 土地收用法

第一章 總則

第一條 公共ノ利益ト爲ルベキ事業ノ爲之ニ要スル土地ヲ收用又ハ使用スルノ必要アルトキハ其ノ土地ハ本法ノ規定ニ依リ之ヲ收用又ハ使用スルコトヲ得

本法ニ於テ使用ト稱スルハ權利ノ制限ヲ包含ス

第二條 土地ヲ收用又ハ使用スルコトヲ得ル事業

ハ左ノ各號ノ一ニ該當スルモノナルコトヲ要ス

一 國防其ノ他軍事ニ關スル事業

二 皇室陵墓ノ營建又ハ神社若ハ官公署ノ建設

ニ關スル事業

三 社會事業又ハ教育若ハ學藝ニ關スル事業

四 鐵道、軌道、索道、專用自動車道、道路、

橋梁、河川、堤防、砂防、運河、用惡水路、

溜池、船渠、港灣、埠頭、水道、下水、國立

公園、市場、電氣裝置、瓦斯裝置又ハ火葬場

ニ關スル事業

五 衛生、測候、航路標識、防風、防火、水害

豫防其ノ他公用ノ目的ヲ以テ國道府縣市町村

其ノ他公共團體ニ於テ施設スル事業

第二條ノ二 現ニ土地ヲ收用又ハ使用スルコトヲ

得ル事業ノ用ニ供スル土地ハ特別ノ必要アル場合ニ非ザレバ之ヲ收用又ハ使用スルコトヲ得ズ

第三條 本法又ハ本法ニ基キテ發スル命令ニ規定シタル起業者ノ權利義務ハ事業ト共ニ其ノ承繼人ニ移轉ス

第四條 本法又ハ本法ニ基キテ發スル命令ノ規定ニ依リ爲シタル手續其ノ他ノ行爲ハ起業者、土地所有者又ハ關係人ノ承繼人ニ對シテモ其ノ效力ヲ有ス

第五條 本法ニ於テ土地所有者ト稱スルハ收用又ハ使用スベキ土地ノ所有者ヲ謂フ

本法ニ於テ關係人ト稱スルハ收用又ハ使用スベキ土地又ハ其ノ土地ニ在ル建物ニ關シテ權利ヲ有スル者ヲ謂フ

第十九條ノ地方長官ノ公告又ハ通知ノ後其ノ土地又ハ其ノ土地ニ在ル建物ニ關シテ權利ヲ取得シタル者ハ關係人ト看做サズ但シ既存ノ權利ヲ承繼シタル者ハ此ノ限リニ在ラズ

第六條 本法又ハ本法ニ基キテ發スル命令ニ規定シタル期間ノ計算法、通知ノ方法及書類ノ送達ニ關シテハ勅令ヲ以テ之ヲ定ム

第七條 本法ノ規定ハ水ノ使用ニ關スル權利其ノ他土地ニ關スル所有權以外ノ收用又ハ使用ヲ爲ス場合ニ之ヲ準用ス

第七條ノ二 本法ハ第二條ニ規定スル事業ノ用ニ供スベキ土地ニ定著スル物件又ハ之ニ關スル權利ヲ其ノ事業ノ用ニ供スル爲ニ收用又ハ使用スル場合ニ之ヲ準用ス

第八條 本法ノ規定ハ土地ニ屬スル土石砂礫ノ收用ヲ爲ス場合ニ之ヲ準用ス

第二章 事業ノ準備

第九條 事業ノ準備ノ爲必要アルトキハ起業者ハ事業ノ種類及立入ルベキ土地ノ區域ヲ定メ地方長官ノ許可ヲ得テ土地ニ立入り測量又ハ検査ヲ爲スコトヲ得但シ此ノ場合ニ於テ宮内省又ハ國ノ起業ニ係ルトキハ宮内大臣又ハ主務大臣ハ之ヲ地方長官ニ通知スベシ

地方長官前項ノ許可ヲ與ヘ又ハ通知ヲ受ケタルトキハ起業者、事業ノ種類及立入ルベキ土地ノ區域ヲ公告シ又ハ之ヲ其ノ土地占有者ニ通知スベシ

第十九條ノ地方長官ノ公告又ハ通知ノ後起業者

ガ事業ノ準備ノ爲其ノ土地ニ立入り測量又ハ検査ヲ爲ス場合ニ於テハ本條ノ許可又ハ通知ヲ要セズ

第十條 前條ノ場合ニ於テハ起業者ハ立入ルベキ日ヨリ五日前ニ其ノ日時及場所ヲ市町村長ニ通知スベシ市町村長ハ之ヲ公告シ又ハ其ノ土地占有者ニ通知スベシ

邸内ニ立入ル場合ニ於テハ起業者ハ豫メ其ノ占有者ニ通知スベシ
日出前日没後ハ起業者ハ占有者ノ承諾アルニ非ザレバ邸内ニ立入ルコトヲ得ズ

第十一條 第九條ノ規定ニ依ル測量又ハ検査ノ爲必要アルトキハ起業者ハ行政廳ノ許可ヲ得テ障害物ヲ除却スルコトヲ得

前項ノ規定ニ依リ障害物ノ除却ヲ爲ス場合ニ於テハ起業者ハ三日前ニ其ノ所有者及占有者ニ通知スベシ

第三章 事業ノ認定

第十二條 土地ヲ收用又ハ使用スルコトヲ得ル事業ハ内務大臣之ヲ認定ス但シ軍機ニ關スル事業ハ此ノ限ニ在ラズ

第十三條 起業者ガ前條ノ認定ヲ受ケントスルトキハ事業計畫書及圖面ヲ添ヘ地方長官ヲ經由シテ内務大臣ニ申請スベシ但シ起業者ガ宮内省又ハ國ナルトキハ宮内大臣又ハ主務大臣ハ事業計畫書及圖面ヲ添ヘ内務大臣ニ請求スベシ

第十四條 内務大臣ガ認定ヲ爲シタルトキハ起業者及事業ノ種類並起業地ヲ公告スベシ

第十五條 天災事變ニ際シ急施ヲ要スル事業ノ爲土地ヲ使用スルトキハ市町村長ハ其ノ事業ノ認定ヲ爲スコトヲ得

前項ノ事業ガ宮内省、國又ハ道府縣ノ起業ニ係ルトキハ宮内大臣、主務大臣又ハ道廳長官府縣知事ハ事業ノ種類、使用スベキ土地ノ區域及使用ノ期間ヲ市町村長ニ通知スベシ

前二項ノ使用ノ期間ハ六箇月ヲ超ユルコトヲ得ズ

軍事上臨時急施ヲ要スル事業ノ爲土地ヲ使用スルトキハ主務大臣ハ使用スベキ土地ノ區域ヲ市町村長ニ通知スベシ

第十六條 起業者ガ市町村長ノ認定ヲ受ケムトスルトキハ事業ノ種類、使用スベキ土地ノ區域及

使用ノ期間ヲ定メ市町村長ニ申請スベシ

第十七條 市町村長ガ認定ヲ爲シタルトキ又ハ第十五條第二項ノ通知ヲ受ケタルトキハ起業者、事業ノ種類、使用スベキ土地ノ區域及使用ノ期間ヲ土地所有者及占有者ニ通知スベシ
市町村長ガ第十五條第四項ノ通知ヲ受ケタルトキハ使用スベキ土地ノ區域ヲ土地所有者及占有者ニ通知スベシ

第十八條 起業者ガ内務大臣ノ認定ノ公告ノ後三箇年內ニ第十九條ノ申請ヲ爲サザルトキハ其ノ認定ハ效力ヲ失フ

第四章 收用ノ手續

第十九條 内務大臣ノ認定ノ公告ノ後起業者ノ申請ニ依リ地方長官ハ收用又ハ使用スベキ土地ノ細目ヲ公告シ又ハ之ヲ土地所有者及關係人ニ通知スベシ
軍機ニ關スル事業ニ付テハ主務大臣ハ地方長官ニ收用又ハ使用スベキ土地ノ細目ヲ通知シ地方長官ハ之ヲ土地所有者及關係人ニ通知スベシ

第十九條ノ二 前條ノ地方長官ノ公告又ハ通知ノ後ハ土地所有者及關係人ハ事業ニ支障ヲ及ボス

長官立會人ヲ指定スベシ
起業者、土地所有者及關係人ハ本條ノ規定ニ依リ作りタル調書ノ記載事項ニ對シ異議ヲ述ブルコトヲ得ズ

第二十二條 第十九條ノ地方長官ノ公告又ハ通知ノ後起業者ハ其ノ土地ニ關スル權利ヲ取得スル爲土地所有者及關係人ニ協議ヲ爲スベシ
前項ノ協議調ハザルトキ又ハ協議ヲ爲スコト能ハザルトキハ起業者ハ收用審査會ノ裁決ヲ求ムルコトヲ得

第二十三條 收用審査會ノ裁決ヲ求メムトスルトキハ起業者ハ其ノ申請書ニ左ニ掲ゲタル書類ヲ添ヘ地方長官ニ差出スベシ但シ軍機ニ關スル事業ニ付テハ事業計畫書及圖面ヲ添フルコトヲ要セス

- 一 事業計畫書及圖面
- 二 市區町村別ニ左ニ掲ゲタル事項ヲ記載シタル書類

收用又ハ使用スベキ土地ノ番號、地目
收用又ハ使用スベキ土地ノ面積及其ノ土地ニ在ル物件ノ種類、數量但シ土地物件ガ分

處ナキ場合ヲ除クノ外行政廳ノ許可ヲ得ルニ非ザレバ收用又ハ使用スベキ土地ノ形質ヲ變更シ又ハ第七條ノ二ノ物件ヲ損壞若ハ收去スルコトヲ得ズ

第二十條 第十九條ノ地方長官ノ公告又ハ通知ノ後ハ起業者ハ其ノ土地ニ立入り土地物件ヲ調査スルコトヲ得
前項ノ場合ニ於テハ起業者ハ立入ルベキ日ヨリ三日前ニ其ノ日時及場所ヲ其ノ土地占有者ニ通知スベシ
日出前日没後ハ占有者ノ承諾アルニ非ザレバ邸内ニ立入ルコトヲ得ズ

第二十一條 第十九條ノ地方長官ノ公告又ハ通知ノ後起業者ハ土地所有者及關係人ト共ニ土地物件ニ關スル調書ヲ作ルベシ
前項ノ場合ニ於テ土地所有者又ハ關係人ガ調書ヲ作ルコトヲ拒ミタルトキ其ノ他之ト共ニ調書ヲ作ルコト能ハザルトキハ起業者ハ市町村長ノ立會ヲ以テ之ヲ作ルベシ市町村長ガ起業者ナルトキ又ハ起業者ニ對シ第四十條第二項ニ掲ゲタル關係ヲ有スルトキハ起業者ノ申請ニ依リ地方

割ヲ來スベキ場合ニ於テハ其ノ全部ノ面積建坪等ヲ併記スベシ
損失補償ノ見積金額及内譯
收用ノ時期又ハ使用ノ時期、期間
土地所有者及關係人ノ氏名、住所
三 第二十一條ノ規定ニ依ル土地物件ニ關スル調書又ハ其ノ寫
收用審査會ノ裁決ヲ求メタルトキハ起業者ハ同時ニ土地所有者及關係人ニ通知スベシ

第二十四條 地方長官前條ノ書類ヲ受ケタルトキハ之ヲ市町村長ニ送付スベシ但シ同條第一項第三號ノ書類ハ此ノ限ニ在ラズ
市町村長前項ノ書類ヲ受ケタルトキハ遲滞ナク公告ヲ爲シ公告ノ日ヨリ一週間之ヲ公衆ノ縦覽ニ供スベシ

第二十五條 土地所有者及關係人ハ前條縦覽期間ノ初日ヨリ二週間內ニ地方長官ニ意見書ヲ差出スコトヲ得

第二十六條 地方長官ハ前條ノ期間ヲ經過シタル後收用審査會ヲ開クベシ

第二十七條 收用審査會ハ開會ノ日ヨリ一週間內

ニ裁決ヲ爲スベシ但シ地方長官ハ必要ト認ムルトキハ二週間内ノ延期ヲ爲スコトヲ得

第二十八條 收用審査會ガ前條ノ期間内ニ裁決ヲ爲サザルトキハ地方長官ハ事情ヲ具シ内務大臣ノ指揮ヲ請フベシ内務大臣ハ收用審査會ニ一定ノ期間内ニ裁決ヲ爲スベキコトヲ命ジ又ハ之ニ代テ裁決ヲ爲スベキコトヲ地方長官ニ命ズルコトヲ得

收用審査會ガ前項ノ期間内ニ裁決ヲ爲サザルトキハ地方長官ハ之ニ代テ裁決ヲ爲スベシ

第二十九條 收用審査會ガ招集ニ應ゼズ又ハ成立セザルトキハ地方長官ハ内務大臣ノ認可ヲ得テ之ニ代テ裁決ヲ爲スコトヲ得事業ノ急施ヲ要スルトキ亦同ジ

第三十條 收用審査會ガ裁決ヲ爲シタルトキハ其ノ裁決書ノ謄本ヲ添ヘ地方長官ニ報告スベシ

第三十一條 前條ノ報告ヲ受ケ又ハ收用審査會ニ代テ裁決ヲ爲シタル時ハ地方長官ハ裁決書ノ謄本ヲ起業者、土地所有者及關係人ニ送達スベシ

裁決ヲ爲スベシ

第三十六條 收用審査會ハ會長一人委員六人ヲ以テ之ヲ組織ス

第三十七條 會長ハ地方長官ヲ以テ之ニ充ツ議事其ノ他ノ會務ヲ統理シ會ヲ代表ス

第三十八條 委員ハ高等文官及道府縣名譽職參事會員各三人ヲ以テ之ニ充ツ
高等文官ニシテ委員タルベキ者ハ内務大臣之ヲ命ジ道府縣名譽職參事會員ニシテ委員タルベキ者ハ其ノ互選トス

第三十九條 收用審査會ハ委員半數以上出席スルニ非ザレバ會議ヲ開クコトヲ得ズ

收用審査會ノ議事ハ過半數ヲ以テ決ス可否同數ナルトキハ會長ノ決スル所ニ依ル

第四十條 委員ガ起業者、土地所有者又ハ關係人ナルトキハ收用審査會ノ議事ニ參與スルコトヲ得ズ

委員ガ起業者、土地所有者若ハ關係人ノ配偶者、四親等内ノ親族、戸主、家族、代理人及保佐人ナルトキ又ハ起業者、土地所有者若ハ關係人タル市町村ノ市町村長、合名會社ノ社員、合資會

路、堤防其ノ他公用ニ供スル工作物ノ新築、改築又ハ増築ノ爲土地ヲ收用又ハ使用スルトキハ地方長官ノ許可ヲ得テ直ニ本章ノ規定ニ依ルコトヲ得

第三十三條 市町村長ガ認定ヲ爲シ又ハ第十五條第二項若ハ第四項ノ通知ヲ受ケタルトキハ第七條ノ通知ノ後起業者ヲシテ直ニ其ノ土地ヲ使用セシムルコトヲ得但シ損失ノ補償ニ關シテハ本法ノ規定ニ依ルベシ

第三十四條 起業者ガ第十九條ノ地方長官ノ公告又ハ通知ノ後一箇年内ニ收用審査會ノ裁決ヲ求メザルトキハ其ノ公告又ハ通知ハ效力ヲ失フ

第五章 收用審査會

第三十五條 收用審査會ハ内務大臣ノ監督ニ屬シ左ニ掲ゲタル事項ヲ定メテ收用又ハ使用ノ裁決ヲ爲スモノトス

- 一 收用又ハ使用スベキ土地ノ區域
 - 二 損失ノ補償
 - 三 收用ノ時期又ハ使用ノ時期、期間
- 起業者ノ申請ガ本法又ハ本法ニ基キテ發スル命令ノ規定ニ違反スルトキハ收用審査會ハ却下ノ

社及株式合資會社ノ無限責任社員、株式會社ノ取締役及監査役其ノ他法人ノ理事及監事ナルトキ亦前項ニ同ジ

本條ノ規定ニ依リ委員ノ數減少シテ前條第一項ノ數ヲ得ザルトキハ地方長官ハ左ニ掲ゲタル順序ニ從ヒ其ノ本條ノ規定ニ抵觸セザル者ノ内ヨリ臨時ニ指名シテ之ヲ補充スベシ

- 一 道府縣名譽職參事會員
- 二 道府縣名譽職參事會員ノ補充員
- 三 道府縣會議員

第四十一條 收用審査會ノ裁決ハ起業者、土地所有者及關係人ノ申立タル範圍ヲ超ユルコトヲ得ズ

第四十二條 收用審査會ハ必要ト認ムルトキハ鑑定人ヲ選ビ其ノ意見ヲ聽クコトヲ得

前項ノ鑑定人ニ付テハ第四十條ノ規定ヲ準用ス

第四十三條 收用審査會ハ必要ト認ムルトキハ起業者、土地所有者又ハ關係人ヲ呼出シ其ノ意見ヲ聽クコトヲ得

クコトヲ得

第四十四條 裁決ハ文書ヲ以テ之ヲ爲シ其ノ理由ヲ附シ會長之ニ署名捺印スベシ
裁決書ノ謄本ニハ會ノ印章ヲ押捺スベシ

第四十五條 鑑定人及事實參考人ハ旅費及手當ヲ請求スルコトヲ得

第四十六條 二府縣以上ニ渉ル事業ニ係ルトキハ關係地方長官ハ勅令ノ定ムル所ニ從ヒ合同シテ收用審査會ヲ開クコトヲ得

第六章 損失ノ補償

第四十七條 土地所有者及關係人ノ受クル損失ハ起業者之ヲ補償スベシ

損失ノ補償ハ各人別ニ之ヲ爲スベシ但シ其ノ各人別ニ見積リ難キトキハ此ノ限ニ在ラズ

第四十八條 收用スベキ土地物件ニ付テハ相當ノ價格ニ依リ其ノ損失ヲ補償スベシ
使用スベキ土地ニ付テハ其ノ土地及近傍類地ノ料金ニ依リ其ノ損失ヲ補償スベシ

第四十九條 土地ノ一部ヲ收用又ハ使用スルニ因リテ殘地ノ價格ヲ減ジ其ノ他殘地ニ關シ損失ヲ生ズベキトキハ其ノ損失ヲ補償スベシ

ノ通常受クベキ損失ハ之ヲ補償スベシ

第五十五條 土地ノ使用ガ三箇年以上ニ亙ルトキ又ハ土地ノ形質ヲ變更スルトキハ若ハ使用スベキ土地ニ建物アルトキハ所有者ハ其ノ土地ノ收用ヲ請求スルコトヲ得但シ空間ヲ使用スル場合ニ於テ土地ノ使用ヲ妨ゲザルトキハ此ノ限ニ在ラズ

第五十六條 第十九條ノ地方長官ノ公告又ハ通知ノ後行政廳ノ許可ヲ得ズシテ土地ノ形質ヲ變更シ又ハ工作物ノ新築、改築、増築若ハ大修繕ヲ爲シ又ハ物件ヲ附加増置シタル土地所有者又ハ關係人ハ之ニ關スル損失ノ補償ヲ請求スルコトヲ得ズ

第五十七條 第九條又ハ第二十條ノ規定ニ依リ土地ニ立入り測量、検査又ハ調査ヲ爲スニ因リテ他人ニ及ボシタル損失ハ起業者之ヲ補償スベシ

第五十八條 第十九條ノ地方長官ノ公告又ハ通知ノ後起業者ガ事業ヲ廢止變更シタルニ因リテ土地所有者又ハ關係人ノ受ケタル損失ハ之ヲ補償スベシ

第五十九條 前二條ノ補償ニ付キ協議調ハザルト

第五十條 土地ノ一部ヲ收用スルニ因リテ殘地ヲ從來用キタル目的ニ供スルコト能ハザルトキハ土地所有者ハ其ノ全部ノ收用ヲ請求スルコトヲ得

第五十一條 收用又ハ使用スベキ土地ニ在ル物件ハ移轉料ヲ補償シテ移轉セシムベシ但シ物件ノ分割ヲ來シ其ノ全部ヲ移轉スルニ非ザレバ從來用キタル目的ニ供スルコト能ハザルトキハ所有者ハ其ノ全部ノ移轉料ヲ請求スルコトヲ得
前項ノ場合ニ於テ物件ヲ移轉スルニ因リテ從來用キタル目的ニ供スルコト能ハザルトキハ所有者ハ其ノ收用ヲ請求スルコトヲ得

第五十二條 前條ノ移轉料ニシテ其ノ物件ノ相當價格ヲ超ユル場合ニ於テハ起業者ハ其ノ收用ヲ請求スルコトヲ得

第五十三條 土地ヲ收用又ハ使用スルニ因リテ通路、溝渠、墻柵其ノ他ノ工作物ノ新築、改築、増築又ハ修繕ヲ爲ス必要ヲ生ズルトキハ其ノ費用ヲ補償スベシ

第五十四條 前數條ニ規定シタルモノノ外土地ヲ收用又ハ使用スルニ因リテ土地所有者及關係人キハ地方長官ノ決定ヲ求ムルコトヲ得此ノ場合ニ於テハ第三十一條及第四十一條乃至第四十五條ノ規定ヲ準用ス

第七章 收用ノ效果

第六十條 起業者ハ收用又ハ使用ノ時期迄ニ補償金ヲ拂渡スベシ
左ニ掲ゲタル場合ニ於テハ補償金ヲ供託スルコトヲ得

- 一 補償金ヲ受クベキ者ガ其ノ受領ヲ拒ミタルトキ又ハ之ヲ受領スルコト能ハザルトキ
- 二 起業者ガ過失ナクシテ補償金ヲ受クベキ者ヲ確知スルコト能ハザルトキ
- 三 起業者ガ收用審査會ノ裁決中補償金額ノ決定ニ對シテ不服アルトキ但シ補償金ヲ受クベキ者ノ請求アルトキハ起業者ハ自己ノ見積金額ヲ拂渡スベシ
- 四 起業者ガ補償金拂渡ノ差押又ハ假差押ヲ受ケタルトキ

第六十一條 土地所有者及關係人ハ收用又ハ使用ノ時期迄ニ土地物件ヲ引渡シ又ハ物件ヲ移轉スベシ但シ左ニ掲ゲタル場合ニ於テハ起業者ノ請

求ニ依リ市町村長ハ土地所有者及關係人ニ代ルモノトス

一 土地所有者及關係人が土地物件ヲ引渡シ又ハ物件ヲ移轉スルコト能ハザルトキ

二 起業者ノ過失ナクシテ土地所有者及關係人ヲ確知スルコト能ハザルトキ

第六十二條 起業者ガ收用又ハ使用ノ時期迄ニ補償金ノ拂渡又ハ供託ヲ爲サザルトキハ收用審査會ノ裁決ハ其ノ效力ヲ失フ但シ土地所有者及關係人が損害賠償ノ請求ヲ爲スコトヲ妨ゲズ

第六十三條 土地物件ヲ收用スルトキハ收用ノ時期ニ於テ所有權ハ起業者之ヲ取得シ其ノ他ノ權利ハ消滅ス

土地ヲ使用スルトキハ其ノ權利ハ使用ノ時期ニ於テ起業者之ヲ取得シ其ノ他ノ權利ハ使用ノ期間其ノ行使ヲ停止セラル但シ使用ヲ妨ゲザルモノハ此ノ限ニ在ラズ

第六十四條 收用審査會ノ裁決ノ後收用又ハ使用スベキ土地物件ガ土地所有者又ハ關係人ノ責ニ歸スベカラザル事由ニ因リテ滅失又ハ毀損シタル時ハ其ノ滅失又ハ毀損ハ起業者ノ負擔ニ歸ス

第六十五條 先取特權、質權又ハ抵當權ハ其ノ目的物ノ收用又ハ使用ニ因リテ債務者が受クベキ補償金ニ對シテモ之ヲ行フコトヲ得但シ其ノ拂渡前ニ差押ヲ爲スベシ

第六十六條 收用ノ時期ヨリ二十箇年内ニ事業ノ廢止其ノ他ノ事故ニ因リテ收用シタル土地ノ全部又ハ一部ガ不用ニ歸シタルトキハ舊所有者又ハ其ノ相續人ハ補償價格ヲ以テ之ヲ買受ルコトヲ得但シ第五十條ノ規定ニ依リテ收用シタル殘地ハ其ノ接續部分ノ不用ニ歸シタル時ニ非ザレバ之ヲ買受ルコトヲ得ズ

前項ノ場合ニ於テ買受ハ第三者ニ對シテモ其ノ效力ヲ有ス
第一項ノ期間内ニ於テ收用シタル土地ヲ他ノ軍機ニ關スル事業又ハ内務大臣ノ認定シタル事業ニ供スルトキハ不用ニ歸シタルモノト看做サズ

第六十七條 前條ノ不用ノ土地アルトキハ起業者ハ舊所有者又ハ其ノ相續人ニ通知スベシ但シ起業者ノ過失ナクシテ之ヲ確知スルコト能ハザルトキハ少クトモ三回ノ公告ヲ爲スベシ
前項ノ通知ヲ受ケタル日ヨリ二箇月内又ハ第三

回ノ公告終了ノ日ヨリ六箇月内ニ舊所有者又ハ其ノ相續人が買受ノ通知ヲ爲サザルトキハ其ノ權利ヲ失フ

第八章 費用ノ負擔

第六十八條 起業者、土地所有者及關係人が本法又ハ本法ニ基キテ發スル命令ニ規定シタル手續其ノ他ノ行為ヲ爲シ又ハ義務ヲ履行スル爲ニ要シタル費用ハ各其ノ負擔トス

第六十九條 收用審査會ニ要シタル費用ハ命令ヲ以テ別ニ負擔者ヲ定メタルモノヲ除クノ外府縣ノ負擔トス第五十九條ノ場合ニ要シタル費用ニ付テ亦同ジ

第七十二條ノ規定ニ依リ收用審査會ノ裁決ヲ取消シタル場合ニ於テ更ニ開クベキ收用審査會ニ要シタル費用ハ之ヲ起業者、土地所有者及關係人ニ負擔セシムルコトヲ得ズ

第七十條 第七十三條第一項ノ規定ニ依リ地方長官ガ義務者ノ爲スベキ事項ヲ自ラ執行シ又ハ他人ヲシテ執行セシメタル爲ニ要シタル費用ハ府縣ノ負擔トス
府縣ハ前項ノ費用ヲ各其ノ義務者ヨリ徵收スル

コトヲ得但シ其ノ義務者ノ受領スベキ補償金ヲ以テ之ニ充ツルコトヲ得

第七十一條 土地所有者又ハ關係人ノ負擔スベキ費用ハ第六十一條但書ノ場合ニ於テハ市町村ノ負擔トス
前項ノ場合ニ於テハ前條第二項ノ規定ヲ準用ス

第九章 監督、強制及罰則

第七十二條 收用審査會ガ其ノ權限ヲ超エ又ハ法令ノ規定ニ違反シテ爲シタル裁決ハ内務大臣之ヲ取消スコトヲ得

第七十三條 義務者が本法又ハ本法ニ基キテ發スル命令ノ規定ニ依ル義務ヲ履行セズ又ハ之ヲ履行スルモノ一定ノ期間内ニ終了スル見込ナキトキハ地方長官ハ自ラ之ヲ執行シ又ハ他人ヲシテ之ヲ執行セシムルコトヲ得

義務者が本法又ハ本法ニ基キテ發スル命令ノ規定ニ依ル義務ヲ履行セザル場合ニ於テ前項ノ規定ニ依ルコト能ハザルトキハ地方長官ハ直接ニ之ヲ強制スルコトヲ得

第七十四條 前章ノ規定ニ依リ私人ノ負擔スベキ費用ヲ支出セザル者アルトキハ行政廳ハ國稅滯

納處分ノ例ニ依リ之ヲ徵收スルコトヲ得
前項ノ費用ニ付テハ行政廳ハ國稅ニ次ギ先取特
權ヲ有ス

第七十五條 第九條又ハ第十一條ノ場合ニ於テ行
政廳ノ許可ヲ得ズシテ土地ニ立入り又ハ障害物
ヲ除却シタル者ハ百圓以下ノ罰金又ハ科料ニ處
ス

第七十六條 第十九條ノ地方長官ノ公告又ハ通知
アリタルコトヲ知りタル者第十九條ノ二ノ規定
ニ違反シタルトキハ二百圓以下ノ罰金又ハ科料
ニ處ス

第七十七條 鑑定人トシテ收用審査會ニ呼出サレ
タル者虚偽ノ陳述ヲ爲シタルトキハ二年以下ノ
懲役ニ處ス

第七十八條 故ナク鑑定人タルコトヲ拒ミタル者
又ハ鑑定人が故ナク鑑定ヲ爲スコトヲ拒ミタル
トキハ百圓以下ノ過料ニ處ス

第七十九條 鑑定人又ハ第四十三條第二項若ハ第
五十九條ノ規定ニ依リ呼出ヲ受ケタル者故ナク
出頭セザルトキハ五十圓以下ノ過料ニ處ス

第八十條 非訟事件手續法第二百六條乃至第二百

八條ノ規定ハ前二條ノ過料ニ之ヲ準用ス

第十章 訴願及訴訟

第八十一條 收用審査會ノ裁決ニ對シテ不服アル
者ハ内務大臣ニ訴願スルコトヲ得

收用審査會ノ違法裁決ニ由リ權利ヲ傷害セラレ
タリトスル者ハ行政裁判所ニ出訴スルコトヲ得
前二項ノ規定ニ依ル訴願訴訟ハ裁決書謄本ノ交
付ヲ受ケタル日ヨリ二週間ヲ經過シタルトキハ
之ヲ提起スルコトヲ得ズ

本法ノ規定ニ依リ通常裁判所ニ出訴ヲ許シタル
事項ニ關シテハ訴願又ハ行政訴訟ヲ提起スルコ
トヲ得ズ

第八十二條 收用審査會ノ裁決中補償金額ノ決定
ニ對シテ不服アル者ハ通常裁判所ニ出訴スルコ
トヲ得但シ裁決書謄本ノ交付ヲ受ケタル日ヨリ
三箇月ヲ經過シタルトキハ此ノ限ニ在ラズ

前項ノ訴訟ハ收用審査會ニ對シテ之ヲ提起スル
コトヲ得ズ
第五十九條ノ規定ニ依ル地方長官ノ決定ニ付テ
ハ前二項ノ規定ヲ準用ス
第八十三條 本法ノ規定ニ依ル訴願訴訟ハ事業ノ

進行及土地ノ收用又ハ使用ヲ停止セズ
附則(略)

河川法

明治二十九年四月
法律第七十一號
大正四年六月
法律第四號改正
昭和二年三月
法律第三號改正
昭和九年三月
法律第二十號改正

第一章 總則
第二章 河川ノ管理
第三章 河川ノ使用ニ關スル制限
第四章 河川ニ關スル費用ノ負擔、土地所有者ノ權理義務並河川ノ管理ヨリ生ズル收入等
第五章 監督及強制手續
第六章 訴願及訴訟
第七章 附則

第一章 總則

第一條 此ノ法律ニ於テ河川ト稱スルハ主務大臣ニ於テ公共ノ利害ニ重大ノ關係アリト認定シタル河川ヲ謂フ

第二條 河川ノ區域ハ地方行政廳ノ認定スル所ニ依ル

第三條 河川並其ノ敷地若ハ流水ハ私權ノ目的トナルコトヲ得ズ

第四條 地方行政廳ニ於テ河川ノ支川若ハ派川ト認定シタルモノハ命令ヲ以テ特別ノ規程ヲ設ケタル場合ヲ除クノ外總テ河川ニ關スル規程ニ從テ堤防、護岸、水制、河津、曳船道其ノ他流水ニ因リテ生ズル公利ヲ増進シ又ハ公害ヲ除却若ハ輕減スル爲ニ設ケタルモノニシテ地方行政廳ニ於テ河川ノ附屬物ト認定シタルモノハ命令ヲ以テ特別ノ規程ヲ設ケタル場合ヲ除クノ外總テ河川ニ關スル規程ニ從テ

第五條 此ノ法律ニ規定シタル事項ハ命令ノ定ムル所ニ從ヒ河川ニ流入シ若ハ河川ヨリ分岐スル水流若ハ水面又ハ第一條ノ認定ヲ受ケザル河川ニ準用スルコトヲ得

第二章 河川ノ管理

第六條 河川ハ地方行政廳ニ於テ其ノ管内ニ係ル部分ヲ管理スベシ但シ主務大臣ガ自ラ河川ニ關スル工事ヲ施行シタルモノニ付必要ト認ムルトキ又ハ他府縣ノ利益ヲ保全スル爲ニ必要ト認ムルトキハ主務大臣ニ於テ代テ之ヲ管理シ又ハ其ノ維持修繕ヲナスコトヲ得

第七條 地方行政廳ハ河川ニ關スル工事ヲ施行シ其ノ維持ヲナスノ義務アルモノトス但シ第四十三條ニ依リ通航料徵收ノ許可ヲ得タル者ヲシテ其ノ義務ノ一部ヲ負擔セシムルコトヲ妨グズ

第八條 河川ニ關スル工事ニシテ利害ノ關係スル所一府縣ノ區域ニ止マラザルトキ又ハ其ノ工事至難ナルトキ若ハ其ノ工費至大ナルトキ又ハ河川ノ全部若ハ一部ニ付キ大體ニ渉ル一定ノ計畫ニ基キテ施行スル改良工事ナルトキハ主務大臣ハ自ラ其ノ工事ヲ施行シ又ハ其ノ工事ニ因リ特

ニ利益ヲ受ケル公共團體ノ行政廳ニ命ジテ之ヲ施行セシムルコトヲ得

第九條 地方行政廳ハ命令ノ定ムル所ニ從ヒ其ノ管内ノ下級行政廳ヲシテ河川ニ關スル工事ノ一部ヲ施行セシメ又ハ其ノ維持ヲナサシムルコトヲ得

第十條 河川ノ附屬物ニシテ兼テ他ノ工作物ノ效用ヲナスモノアルトキハ地方行政廳ハ其ノ工作物ノ管理者ヲシテ其ノ附屬物ニ關スル工事ヲ施行シ又ハ其ノ維持ヲナサシムルコトヲ得

他ノ工作物ニシテ兼テ河川ノ附屬物ノ效用ヲナスモノアルトキハ地方行政廳ニ於テ其ノ工作物ニ關スル工事ヲ施行シ又ハ其ノ維持ヲナスコトヲ得

第十一條 他ノ工事ニ因リ河川ニ關スル工事ノ必要ヲ生ジタルトキハ地方行政廳ハ其ノ工事ノ施行者ヲシテ河川ニ關スル工事ヲ施行セシムルコトヲ得

河川ニ關スル工事ニ因リ必要ヲ生ジタル他ノ工事又ハ河川ニ關スル工事ヲ施行スル爲ニ必要ナル他ノ工事ハ地方行政廳ニ於テ併セテ之ヲ施行スルコトヲ得

第十二條 行政廳ハ河川ニ關スル工事ノ請負ヲナスコトヲ得ズ

第十三條 河川ニ關スル工事ノ請負ノ制限ハ命令ヲ以テ之ヲ定ム

第十四條 地方行政廳ハ其ノ管理ニ屬スル河川ノ臺帳ヲ調製シ主務大臣ノ認可ヲ受クベシ
臺帳ノ調製、保管、記載事項等ニ關スル規程ハ命令ヲ以テ之ヲ定ム

主務大臣ノ認可ヲ經タル臺帳ニ記載セル事項ニ關シテハ反對ノ立證ヲ許サズ但シ臺帳調製後其ノ事實ノ變更シタルコトヲ證スルヲ妨ゲズ

第十五條 地方行政廳ニ於テ河川管理ノ爲特ニ吏員ヲ置クコトヲ要スルトキハ其ノ定員、給料、手當、職務權限並其ノ費用ノ負擔者等ハ命令ヲ以テ之ヲ定ムルコトヲ得

第三章 河川ノ使用ニ關スル制限並警察
第十六條 舟筏ノ通航及流水ニ關スル規程ハ命令

事項ニ因リテ生ズル危害ヲ豫防スル爲ニ必要ナル設備ヲナサシムルコトヲ得

一 工事施行ノ方法若ハ施行後ニ於ケル管理ノ方法公安ヲ害スルノ虞アルトキ

二 河川ノ狀況ノ變更其ノ他許可ノ後ニ起リタル事實ニ因リ必要ヲ生ズルトキ

三 河川ニ關スル工事ヲ施行シ又ハ許可ヲ與ヘタルモノノ外ニ工事、使用若ハ占用ヲ許可スル爲ニ必要ナルトキ

四 此ノ法律ニ基キテ發スル命令ノ規程ニ依リ必要ヲ生ズルトキ

五 法律命令ニ違背シタルトキ

六 公益ノ爲必要アルトキ

第二十一條 本章ノ規程ニ依リ與ヘタル許可ニ依リテ生ズル權利義務ハ地方行政廳ノ許可ヲ受ケルニ非ザレバ之ヲ他人ニ移スコトヲ得ズ

第二十二條 法律、命令若ハ許可ノ條件ニ違背シタル者ハ行政廳ノ命ズル所ニ從ヒ其ノ違背ニ因リテ生ジタル事實ヲ更正シ且其ノ因リテ生ズル損害ヲ豫防スル爲ニ必要ナル設備ヲナスベシ

第二十三條 洪水ノ危険切迫ナルトキハ地方行政

ヲ以テ之ヲ定ム

第十七條 左ニ記載スル工作物ヲ新築、改築若ハ除却セムトスル者ハ地方行政廳ノ許可ヲ受クベシ

一 流水ヲ停滯セシメ若ハ引用シ又ハ流水ノ害ヲ豫防スル爲ニ施設スル工作物

二 河川ニ注水スル爲ニ施設スル工作物

三 河川ノ區域内ニ於テ敷地ニ固著シテ施設スル工作物又ハ河川ニ沿ヒ若ハ河川ヲ横過シ若ハ其ノ床下ニ於テ施設スル工作物

第十八條 河川ノ敷地若ハ流水ヲ占用セムトスル者ハ地方行政廳ノ許可ヲ受クベシ

第十九條 流水ノ方向、清潔、分量、幅員若ハ深淺又ハ敷地ノ現狀等ニ影響ヲ及ボスノ虞アル工事、營業其ノ他ノ行爲ハ命令ヲ以テ之ヲ禁止若ハ制限シ又ハ地方行政廳ノ許可ヲ受ケシムルコトヲ得

第二十條 左ノ場合ニ於テ地方行政廳ハ許可ヲ取消シ若ハ其ノ效力ヲ停止シ若ハ其ノ條件ヲ變更シ又ハ既ニ施設シタル工作物ヲ改築若ハ除却セシメ又ハ原形ノ回復ヲ命ジ又ハ許可ヲセラレタル

應又ハ其ノ委任ヲ受ケタル官吏ハ其ノ現場ニ於テ直ニ防禦ノ爲ニ必要ナル土地ヲ使用シ土砂、竹木其ノ他ノ材料、車馬其ノ他ノ運搬具及器具等ヲ使用若ハ徵收シ又ハ其ノ現場ニ在ル者ヲ使役シ又ハ家屋其ノ他ノ障害物ヲ破毀スルコトヲ得

前項ノ場合ニ於テ地方行政廳又ハ其ノ委任ヲ受ケタル官吏ハ其ノ管内ニ於テ夫役ヲ命ジ又ハ下級公共團體ニ命ジテ土地、材料、運搬具、器具及夫役ヲ供セシメ又ハ市町村長其ノ他ノ市町村吏員等ヲ指揮シテ必要ナル處分ヲナサシムルコトヲ得

地方行政廳ハ其ノ管内ノ下級公共團體ニ命ジテ豫メ洪水防禦ノ爲必要ナル準備ヲナサシムルコトヲ得

第四章 河川ニ關スル費用ノ負擔、土地所有者ノ權利義務並河川ノ管理ヨリ生ズル收入等

第二十四條 河川ニ關スル費用ハ府縣ノ負擔トス主務大臣ニ於テ第六條但書ニ依リ河川ノ管理若ハ其ノ維持修繕ヲナス場合ニ於テハ國庫ニ於テ

其ノ費用ノ全部若ハ一部ヲ負擔スルコトヲ得

第一項費用ノ範圍ハ主務大臣ノ定ムル所ニ依ル

第二十五條 通航料徴收ノ許可ヲ受ケテ施設シタル

ル工作物ノ爲ニ要スル費用ハ其ノ徴收期間許可

ヲ受ケタル者ノ負擔トス

第二十六條 河川ノ改良工事ニ要スル豫算費用ニシテ其ノ府縣内ノ地價總額千分ノ二箇半ヲ超過スルトキハ其ノ超過額ノ三分ノ二以内ヲ國庫ヨリ補助スルコトヲ得但シ地價總額百分ノ二箇半ヲ超過スル部分ニ付テハ其ノ超過額ノ四分ノ三以内ヲ補助スルコトヲ得

前項ニ於テ地價ト稱スルハ其ノ年分地租ヲ徴收スベキ土地ノ一月一日現在地價ヲ謂フ

災害ニ因リ必要ヲ生ジタル工事ニ要スル費用ハ第一項ニ依ルノ限ニ在ラズ

工事費用精算ノ上豫算ヨリ減スルコトアルモ既ニ與ヘタル補助金ハ之ヲ還付セシメザルコトヲ得

第二十七條 第八條ニ依リ主務大臣ニ於テ工事ヲ施行スル場合ニ於テハ府縣ハ前條ノ規程ニ準ジテ其ノ豫算費用ヲ負擔シ國庫ハ其ノ殘額ヲ負擔

事ノ費用負擔者ヲシテ之ヲ負擔セシムルコトヲ得

河川ニ關スル工事ニ因リテ必要ヲ生ジタル他ノ工事ノ費用ハ其ノ工事ノ管理者タル行政廳ノ直接ニ管轄スル公共團體若ハ管理者タル私人ノ負擔トス但シ命令ノ定ムル所ニ從ヒ河川ニ關スル費用ノ内ヨリ其ノ費用ノ全部若ハ一部ヲ補助スルコトヲ妨ゲズ

第三十三條 河川ニ關スル工事ニシテ他ノ府縣若ハ他府縣内ノ公共團體ニ於テ著シク利益ヲ受クルモノナルトキ又ハ河川ニ關スル工事若ハ其ノ維持ニシテ主トシテ他府縣内ノ住民ノ河川ノ使用ニ因リ必要ヲ生ズルモノナルトキハ其ノ府縣若ハ其ノ府縣内ノ公共團體ヲシテ其ノ費用ノ一部ヲ負擔セシムルコトヲ得

第三十四條 此ノ法律若ハ此ノ法律ニ基キテ發スル命令ニ依リ行政廳ノ命ジタル事項ヲ遵守スル爲ニ要スル費用ハ特別ノ規程ヲ設ケタル場合ヲ除クノ外其ノ命ヲ受ケタル者ノ負擔トス

第五十二條ニ依リ主務大臣若ハ地方長官ニ於テ義務者ノ履行スベキ事項ヲ自ラ執行シ若ハ第三

スベシ

前項ノ場合ニ於テ府縣ノ負擔スベキ金額並不足額ノ補充及殘餘金ノ處分等ハ主務大臣之ヲ定ム

第二十八條 第八條ニ依リ主務大臣ニ於テ工事ヲ施行スル場合ニ於テハ府縣ハ其ノ負擔スベキ豫算金額ヲ國庫ニ納付スベシ

第二十九條 地方行政廳ハ其ノ管内ノ下級公共團體ヲシテ河川ニ關スル費用ノ一部ヲ負擔セシムルコトヲ得

第三十條 河川ノ附屬物ニシテ兼ネテ他ノ工作物ノ放用ヲナスモノアルトキハ其ノ工作物ノ管理者タル私人ヲシテ其ノ附屬物ニ關スル費用ノ全部若ハ一部ヲ負擔セシムルコトヲ得

第三十一條 營業ノ結果ニ因リ特ニ河川ニ關スル工事ノ必要ヲ生ゼシムルモノアルトキハ其ノ營業者ヲシテ其ノ費用ノ一部ヲ負擔セシムルコトヲ得

第三十二條 河川ニ關スル工事ニシテ他ノ工事ニ因リ必要ヲ生ジタルモノナルトキハ其ノ費用ハ工事ノ必要ヲ生ジタル程度ニ於テ其原因タル工

者ヲシテ執行セシメタルガ爲ニ要シタル費用ハ其ノ義務者ヨリ之ヲ追徴スルコトヲ得

第三十五條 公共團體ハ河川ニ關スル工事若ハ費用ノ爲寄附ヲナスコトヲ得

第三十六條 公共團體ハ河川ニ關スル費用ニ付キ私人若ハ其ノ區域内ノ下級公共團體ニ補助ヲナスコトヲ得

第三十七條 公共團體ハ河川ニ關スル費用ニ付キ利害關係ノ厚薄ヲ標準トシテ其ノ區域内ニ於テ不均一ノ賦課ヲナスコトヲ得

第三十八條 河川ニ關スル工事ノ爲必要ナルトキハ地方行政廳ハ管内ノ土地若ハ森林ノ所有者ニ命ジ補償金トシテ時價相當ノ金額ヲ下付シテ其ノ所有ニ係ル土石、砂礫、芝草、竹木及運搬具ヲ供給セシムルコトヲ得但シ時價ニ關シテ協議調ハザルトキ又ハ所有者不明ナルトキ若ハ其ノ所在不明ナルトキハ地方行政廳ハ相當ト認ムル金額ヲ供託シテ本條ノ供給ヲナサシムルコトヲ得

第三十九條 河川ニ關スル工事ノ爲メ必要ナルトキハ地方行政廳ハ其ノ堤外地ニ立入り又ハ其ノ

土地ヲ材料置場等ニ供シ又ハ已ムヲ得ザルトキハ其ノ土地ニ現在スル建設物其ノ他ノ障害物ヲ除却スルコトヲ得

堤外地ニ非ザル沿岸若ハ沿堤土地ニ關シテハ其ノ地先ニ施行スベキ工事ノ爲必要ナル場合ニ限リ前項ヲ適用スルコトヲ得

前二項ノ適用ニ依リ損害ヲ受ケタル所有者ハ使用若ハ除却ノ後三箇月以内ニ府縣ニ對シ補償金ヲ請求スルコトヲ得

第四十條 第二十三條第一項ノ處分ニ因リ著シク損害ヲ受ケタル者アルトキハ地方行政廳ハ其ノ管内ノ市町村、町村組合若ハ水利組合ニ命ジテ其ノ物件ノ價格ヲ補償セシムル事ヲ得其ノ價格ハ行政廳之ヲ定ム

前項補償ノ手續ハ命令ヲ以テ之ヲ定ム

第四十一條 法律、命令若クハ許可認可ノ條件ニ違背シタル工事、設備、使用、占用若クハ工作物ノ管理ニ因リ損害ヲ受ケシメタル者ハ其ノ損害ヲ賠償スベシ

前項ニ依リ行政廳ニ於テ下付スベキ賠償金ハ其ノ行政廳ノ直接ニ管轄スル公共團體ノ負擔トス

ノ土地ノ缺壞若ハ土砂流出ヲ豫防スル爲又ハ其ノ工作物ノ河川ニ及ボス損害ヲ豫防スル爲ニ必要ナル設備ノ全部若ハ一部ヲナシ又ハ其ノ費用ノ全部若ハ一部ヲ負擔スルノ義務ヲ有ス

第四十六條 河川ニ土砂ヲ流出スルノ虞アル土地ノ所有者ハ行政廳ニ於テ其ノ土地ニ竹木芝草ヲ植附ケ若ハ培養シ又ハ其ノ他土砂扞止ノ設備ヲナシ若ハ之ヲ維持スルコトヲ拒ムコトヲ得ズ

前項ニ依リ植附タル竹木芝草ハ命令ノ定ムル所ニ從ヒ其ノ土地所有者ヲシテ收益ノ全部若ハ一部ヲ取得シテ之ヲ培養スルノ義務ヲ負ハシムルコトヲ得

第四十七條 此ノ法律ヲ以テ定メタルモノノ外尙河川附近ノ土地、家屋若ハ其ノ他ノ工作物ニ關シ河川ノ公利ヲ増進シ又ハ公害ヲ除却若ハ輕減スル爲ニ必要ナル制限ハ命令ヲ以テ之ヲ定ム

第四十八條 河川若ハ河川附近ノ土地ニ關シテ規

第四十二條 流水ヲ停滯シ若ハ引用スル爲ノ工作物ノ施設其ノ他河川ノ使用若ハ占用ヲ許可スルトキハ其ノ管理者、使用者若ハ占用者ヨリ使用料若ハ占用料ヲ徵收スルコトヲ得

本條ノ使用料若ハ占用料其ノ他河川ヨリ生ズル收入ハ府縣ニ歸ス

第四十三條 地方行政廳ハ私人若ハ其ノ管内下級公共團體ニ於テ舟筏ノ便ヲ謀ル爲新築若ハ改築工事ヲ施行スル場合ニ限り舟筏ヨリ通航料ヲ徵收スルコトヲ許可スルコトヲ得但シ其ノ年限ハ當初許可シタル時ヨリ三十箇年ヲ超過スルコトヲ得ズ

通航料ノ徵收ヲ停止スベキ場合ニ於ケル補償其ノ他通航料ノ制限等ニ關スル規程ハ命令ヲ以テ之ヲ定ム

第四十四條 河川敷地ノ公用ヲ廢シタルトキハ地方行政廳ハ命令ノ定ムル所ニ從ヒ之ヲ處分スベシ但シ此ノ法律施行前私人ノ所有權ヲ認メタル證據アルトキハ其ノ私人ニ下付スベシ

第四十五條 河川附近ノ土地若ハ工作物ノ所有者ハ命令ノ規程ニ依リ行政廳ノ命ズル所ニ從ヒ其

定シタル事項ハ命令ノ定ムル所ニ從ヒ河川ニ關スル工事ニ因リ新ニ河川トナルベキ區域若ハ其ノ附近ノ土地ニ之ヲ準用スルコトヲ得

第五章 監督及強制手續

第四十九條 主務大臣ハ河川ニ關スル行政ヲ監督ス

地方長官ヲシテ第一次ニ於テ監督セシムベキ事項ハ命令ヲ以テ之ヲ定ム

此ノ法律ニ規定シタル事項ニシテ主務大臣若ハ地方長官ノ認可ヲ要スルモノハ命令ヲ以テ之ヲ定ム

第五十條 他ノ府縣若ハ他ノ府縣内ノ公共團體ヲシテ費用ヲ負擔セシムル爲ニ必要ナル手續ハ命令ヲ以テ之ヲ定ム

第五十一條 主務大臣ハ地方行政廳ニ命ジテ河川ニ關スル工事ヲ施行セシメ又ハ河川ノ區域及其ノ附屬物ノ認定若ハ臺帳ノ更正ヲナサシメ其ノ他此ノ法律ニ規定シタル地方行政廳ノ職權ヲ施

行セシムルコトヲ得

第五十二條 義務者ニ於テ此ノ法律若ハ此ノ法律ニ基キテ發スル命令ニ依ル義務ヲ履行セズ若ハ之ヲ履行スルモ必要ノ期限内ニ終了スルノ見込ナキトキ又ハ其ノ履行ノ方法宜ヲ得ザルトキハ主務大臣若ハ地方長官ハ自ラ之ヲ執行シ又ハ第三者ヲシテ之ヲ執行セシムルコトヲ得

第五十三條 私人ニ於テ此ノ法律若ハ此ノ法律ニ基キテ發スル命令ニ依ル義務ヲ怠ルトキハ主務大臣若ハ地方長官ハ一定ノ期限ヲ示シ若期限内ニ履行セザルトキ若ハ之ヲ履行スルモ不充分ナルトキハ千圓以内ニ於テ指定シタル過料ニ處スルコトヲ豫告シテ其ノ履行ヲ命ズルコトヲ得

第五十四條 此法律若ハ此法律ニ基キテ發スル命令ニ規定シタル事項ニ關シ納付セシメタル保證金ハ行政廳ニ於テ直ニ其ノ納付ノ目的又ハ過料ニ充用スルコトヲ得

第五十五條 前項保證金ハ他ノ債權ノ爲ニ差押フル事ヲ得ズ
第五十八條 此ノ法律ニ規定シタル私人ノ義務ニ關シテハ命令ヲ以テ一年以下ノ懲役若ハ禁錮又ハ二百圓以下ノ罰金ノ罰則ヲ設クルコトヲ得

第六章 訴願及訴訟

第五十九條 此ノ法律若ハ此ノ法律ニ基キテ發スル命令ニ依リ主務大臣若クハ地方行政廳ノナシタル處分ニ對シテ不服アル私人若ハ公共團體ハ主務大臣ニ訴願スルコトヲ得

此ノ法律若ハ此ノ法律ニ基キテ發スル命令若ハ地方行政廳ノ委任ニ依リ下級行政廳ノナシタル處分ニ對シテ不服アル私人若ハ公共團體ハ地方長官ニ訴願シ地方長官ノ裁決ニ不服アル者ハ主務大臣ニ訴願スルコトヲ得

此ノ法律ニ依リ行政訴訟ヲ提起ヲ許シタル場合ニ於テハ主務大臣ニ訴願スルコトヲ得ズ

第六十條 此ノ法律若ハ此ノ法律ニ基キテ發スル命令ニ規定シタル事項ニ關シ行政廳ノ違法處分ニ依リ權利ヲ毀損セラレタリトスル私人若ハ公共團體ハ前條ニ依リ訴願ノ裁決ヲ經タル後行政訴訟ヲ提起スルコトヲ得但シ主務大臣若ハ地方行政廳ノ處分ニ對シテハ直ニ之ヲ提起スルコト

ヲ除クノ外行政廳ニ於テ國稅滯納處分法ニ依リ之ヲ徵收スルコトヲ得
前項ノ費用及過料ニ付キ行政廳ハ國稅ニ次ギ先取特權ヲ有スルモノトス

此ノ法律若ハ此ノ法律ニ基キテ發スル命令ニ依リ公共團體ニ於テ負擔スベキ費用ニ關シテハ此ノ法律ニ於テ特ニ民事訴訟ヲ許シタル場合ヲ除クノ外主務大臣若ハ地方長官ハ必要ナル場合ニ於テハ金額ヲ定メテ之ヲ其ノ豫算表ニ掲ゲ其ノ他必要ナル處分ヲ指揮シ直ニ其ノ金額ヲ支出セシムルコトヲ得

第五十六條 此ノ法律若ハ此ノ法律ニ基キテ發スル命令ニ依リ行政廳ニ付與シタル職權ハ行政處分ニ依リ之ヲ強制スルコトヲ得
行政廳ノ許可若ハ認可ニ附シタル條件ニ關シテモ亦本條及前條ヲ準用ス

第五十七條 此ノ法律若ハ此ノ法律ニ基キテ發スル命令ニ於テ規定シタル事項ニ關シテハ河川視察ノ職務ヲ有スル官吏ヲシテ命令ノ定ムル所ニ從ヒ警察官ノ職權ノ全部若ハ一部ヲ執行セシムルコトヲ得

第六十一條 第四十一條第一項ニ依リ損害賠償ヲ請求スル私人若ハ公共團體ハ損害ヲ受ケタル日ヨリ三箇月以内ニ民事訴訟ヲ提起スルコトヲ得

法律、命令若ハ許可認可ノ條件ニ違背シタルヤ否ヤニ付争アルトキハ前數條ノ手續ニ依リ其ノ違背シタリトノ事實確定シタル後ニ非ザレバ民事訴訟ヲ提起スルコトヲ得ズ但シ此ノ場合ニ於テハ前項ノ期間ハ確定ノ日ヨリ起算スルモノトス

第六十二條 第三十八條若ハ第三十九條ニ依リ下付スベキ補償金額ニ對シ不服アルトキハ行政廳ニ於テ補償金額ノ通知ヲナシタル日ヨリ六箇月以内ニ民事訴訟ヲ提起スルコトヲ得但シ第三十九條ノ場合ニ於テ補償金請求ノ後三箇月以内ニ其ノ金額ノ通知ナキトキハ其ノ期限經過後六箇月以内ニ民事訴訟ヲ提起スルコトヲ得

第六十三條 此ノ法律若ハ此ノ法律ニ基キテ發スル命令ニ規定シタル事項ニ關シテハ本章ノ規程ニ依リ特ニ許シタル場合ヲ除クノ外訴願若ハ行政訴訟ヲ提起シ又ハ行政廳ニ對シ民事訴訟ヲ提

起スルコトヲ得ズ

第七章 附則

第六十四條 此ノ法律ノ全部若ハ一部ヲ施行スベ

キ區域及時期ハ主務大臣之ヲ定ム

此ノ法律ヲ施行スル爲ニ必要ナル規定ハ命令ヲ以テ之ヲ定ム

第六十五條 河川ノ臺帳ハ此ノ法律施行ノ日ヨリ

二箇年以内ニ之ヲ調製スベシ

第六十六條 北海道ニ付テハ本法中府縣ニ關スル

規定ハ道ニ關シ、水利組合ニ關スル規定ハ土功

組合ニ關シ之ヲ適用ス

第六十七條 北海道ノ河川中主務大臣ノ指定スル

モノニ關シテハ當分ノ内第二十四條第一項及第

四十二條第二項ノ規定ニ拘ラズ命令ヲ以テ特別

ノ規定ヲ設クルコトヲ得

道路法

大正八年四月
法律第五十八號
大正十一年三月
法律第三號改正

第一章 總則

第一條 本法ニ於テ道路ト稱スルハ一般交通ノ用

ニ供スル道路ニシテ行政廳ニ於テ第二章ニ依ル

認定ヲ爲シタルモノヲ謂フ

第二條 左ニ掲グルモノハ道路ノ附屬物トシ道路

ニ關スル本法ノ規定ニ從フ但シ命令ヲ以テ特別

ノ定ヲ爲スコトヲ得

一 道路ヲ接續スル橋梁及渡船場

二 道路ニ附屬スル溝、竝木、支壁、柵、道路

元標、里程標及道路標識

三 道路ニ接スル道路修理用材料ノ常置場

四 前各號ノ外命令ヲ以テ道路ノ附屬物ト定メ

タルモノ

第三條 本法ニ於テ橋梁又ハ渡船場ト稱スルハ前

條第一號ノ橋梁又ハ渡船場ヲ謂フ

本法ニ於テ渡船場ト稱スルハ渡船ヲ包含ス

第四條 本法ニ於テ他ノ工作物ト稱スルハ堤防、

堰堤、護岸、鐵道用橋梁其ノ他命令ヲ以テ定ム

ル工作物ヲ謂フ

第五條 本法ニ於テ道路ニ關スル工事ト稱スルハ

道路ノ新設、改築及修繕ニ關スル工事ヲ謂フ

第六條 道路ヲ構成スル敷地其ノ他ノ物件ニ付テ

ハ私權ヲ行使スルコトヲ得ズ但シ所有權ノ移轉

又ハ抵當權ノ設定若ハ移轉ヲ爲スハ此ノ限ニ在

ラズ

第七條 道路、沿道又ハ道路ノ附屬物ニ關スル本

法ノ規定ハ命令ノ定ムル所ニ依リ新ニ道路、沿

道又ハ道路ノ附屬物ト爲ルベキモノニ關シ之ヲ

準用スルコトヲ得

第二章 道路ノ種類、等級及路線ノ

認定

第八條 道路ヲ分チテ左ノ四種トス

一 國道

二 府縣道

三 市道

四 町村道

第九條 道路ノ等級ハ前條記載ノ順序ニ依ル

第十條 國道ノ路線ハ左ノ路線ニ就キ主務大臣之ヲ認定ス

一 東京市ヨリ神宮、府縣廳所在地、師團司令部所在地、鎮守府所在地又ハ樞要ノ開港ニ達スル路線

二 主トシテ軍事ノ目的ヲ有スル路線

第十一條 府縣道ノ路線ハ左ノ路線ニシテ府縣内ノモノニ就キ府縣知事之ヲ認定ス

一 府縣廳所在地ヨリ隣接府縣廳所在地ニ達スル路線

二 府縣廳所在地ヨリ府縣内郡市役所所在地ニ達スル路線

三 府縣廳所在地ヨリ府縣内樞要ノ地、港津又ハ鐵道停車場ニ達スル路線

四 府縣内樞要ノ地ヨリ之ト密接ノ關係ヲ有スル樞要ノ地、港津又ハ鐵道停車場ニ達スル路線

五 府縣内樞要ノ港津ヨリ之ト密接ノ關係ヲ有スル樞要ノ地又ハ鐵道停車場ニ達スル路線

六 府縣内樞要ノ鐵道停車場ヨリ之ト密接ノ關係ヲ有スル樞要ノ地又ハ港津ニ達スル路線

第三章 道路ノ管理

第十七條 國道ハ府縣知事、其ノ他ノ道路ハ其ノ路線ノ認定者ヲ以テ管理者トス但シ勅令ヲ以テ指定スル市ニ於テハ其ノ市内ノ國道及府縣道ハ市長ヲ以テ管理者トス

第十八條 道路ニシテ行政區劃ノ境界ニ係ルモノハ命令ノ定ムル所ニ依リ前條ノ規定ニ依ル管理者タル關係行政廳ノ一ヲ以テ管理者ト爲スコトヲ得

道路ト他ノ工作物ト效用ヲ兼ヌル場合ニ於テハ其ノ道路及工作物ノ管理ニ付前項ノ規定ヲ準用ス但シ私人ヲ管理者ト爲スコトヲ得ズ

第十九條 道路ノ區域ハ管理者之ヲ定ム

第二十條 道路ノ新設、改築、修繕及維持ハ管理者之ヲ爲スベシ

主務大臣必要アリト認ムルトキハ國道ノ新設又ハ改築ヲ爲スコトヲ得此ノ場合ニ於テ道路管理者ノ權限ハ命令ノ定ムル所ニ依リ主務大臣之ヲ行フ

第二十一條 道路ト他ノ工作物ト效用ヲ兼ヌル場合ニ於テハ管理者ハ其ノ工作物ノ管理者ヲシテ

七 數市町村ヲ連結スル重要ナル幹線ニシテ其ノ沿線地方ト密接ノ關係ヲ有スル樞要ノ地、港津又ハ鐵道停車場ニ達スル路線

八 樞要ノ港津又ハ鐵道停車場ヨリ之ト密接ノ關係ヲ有スル國道又ハ府縣道ニ連絡スル路線

九 地方開發ノ爲ニ必要ニシテ將來前各號ノ一ニ該當スベキ路線

第十二條 (削除)

第十三條 市道ノ路線ハ市内ノ路線ニ就キ市長之ヲ認定ス

第十四條 町村道ノ路線ハ町村内ノ路線ニ就キ町村長之ヲ認定ス

第十五條 市町村長ハ市町村ノ爲ニ必要アル場合ニ限り市町村外ノ路線ニ就キ地元市町村長ノ意見ヲ聞キ路線ノ認定ヲ爲スコトヲ得

前項ノ路線ニシテ市長ノ認定シタルモノハ市道ノ路線、町村長ノ認定シタルモノハ町村道ノ路線トス

第十六條 上級ノ道路ト下級ノ道路ト路線ガ重複スル場合ニ於テハ其ノ重複スル部分ハ上級ノ道路トス

道路ニ關スル工事ヲ執行セシメ又ハ道路ノ維持ヲ爲サシムルコトヲ得但シ河川法第十條第一項ノ規定ニ該當スル場合ニ於テハ其ノ規定ニ依ル

第二十二條 他ノ工事又ハ行爲ノ爲ニ必要ヲ生ジタル道路ニ關スル工事ハ管理者其ノ工事執行者又ハ行爲者ヲシテ之ヲ執行セシムルコトヲ得

第二十三條 前二條ノ規定ニ依ル場合ノ外特別ノ事由アル場合ニ於テハ管理者タル行政廳ハ下級行政廳又ハ私人ヲシテ道路ノ修繕ニ關スル工事ヲ執行セシメ又ハ道路ノ維持ヲ爲サシムルコトヲ得

第二十四條 管理者ニ非ザル者ハ管理者ノ許可又ハ承認ヲ得テ道路ニ關スル工事ヲ執行シ又ハ道路ノ維持ヲ爲スコトヲ得

第二十五條 道路ニ關スル工事ノ爲ニ必要ヲ生ジタル他ノ工事ハ管理者道路ニ關スル工事ト共ニ之ヲ執行スルコトヲ得

第二十六條 管理者ニ非ザル者ハ管理者ノ許可又ハ承認ヲ得テ一定ノ期間橋錢又ハ渡錢ヲ徵收スルコトヲ得ル橋梁又ハ渡船場ヲ設クルコトヲ得

前項ノ許可又ハ承認ヲ得タル者ハ徵收期間内橋梁又ハ渡船場ヲ維持及修繕ヲ爲スベシ

第二十七條 管理者ハ特別ノ事由アル場合ニ限り橋錢又ハ渡錢ヲ徵スル橋梁又ハ渡船場ヲ設クルコトヲ得

第二十八條 管理者ハ交通ヲ妨ゲザル限度ニ於テ道路ノ占用ヲ許可又ハ承認スルコトヲ得
國ノ事業ニ付テハ當該官廳ハ主務大臣ト協議シテ前項道路ノ占用ヲ爲スコトヲ得
前項ノ規定ニ依ル主務大臣ノ職權ノ一部ハ之ヲ地方長官ニ委任スルコトヲ得

管理者ハ道路ノ占用ニ付占用料ヲ徵收スルコトヲ得但シ前二項ノ規定ニ依ル占用ニ付テハ此ノ限ニ在ラス

第二十九條 前條第一項ノ規定ニ依ル占用ガ法令ニ依リ土地ヲ收用又ハ使用スルコトヲ得ル公共ノ利益トナルベキ事業ニ係ルモノナル場合ニ於テ管理者正當ノ事由ナクシテ其ノ許可若ハ承認ヲ拒ミ又ハ不相當ナル占用料ヲ定メタルトキハ主務大臣ハ事業者ノ申請ニ依リ占用ヲ許可若ハ承認シ又ハ占用料ヲ定ムルコトヲ得

ヲ負擔セシムルコトヲ得

第三十四條 前條ノ場合ニ於テ道路ト他ノ工作物ト效用ヲ兼ヌルモノナルトキハ其ノ費用ノ負擔ニ付テハ前條第二項但書ノ規定ヲ準用ス但シ河川法第三十條ノ規定ニ該當スル場合ニ於テハ其ノ規定ニ依ル

第三十五條 第三十三條第二項ニ規定スル費用ニシテ國道ノ新設又ハ改築ニ要スルモノハ其ノ一部ヲ國庫ヨリ補助スルコトヲ得特別ノ事由アル場合ニ於テ府縣道以下ノ道路ノ新設又ハ改築ニ要スル費用ニ付亦同ジ

第三十六條 第二十四條ノ規定ニ依ル道路ニ關スル工事若ハ道路ノ維持ニ要スル費用又ハ第二十六條ノ規定ニ依リ設クル橋梁若ハ渡船場ニ關スル費用ハ許可又ハ承認ヲ得タル者ノ負擔トス

第三十七條 他ノ工事又ハ行爲ノ爲必要ヲ生ジタル道路ニ關スル工事ノ費用ハ管理者他ノ工事又ハ行爲ニ付費用ヲ負擔スル者ヲシテ其ノ全部又ハ一部ヲ負擔セシム

第三十八條 特別ノ事由アル場合ニ於テハ第二十三條ノ規定ニ依ル道路ノ修繕ニ關スル工事又ハ

第三十條 管理者ハ其ノ管理ニ屬スル道路ノ臺帳ヲ調製スベシ

臺帳ニ記載スベキ事項ハ命令ヲ以テ之ヲ定ム

第三十一條 道路ノ構造、維持、修繕及工事執行方法ニ關シテハ命令ヲ以テ之ヲ定ム

第三十二條 道路ノ管理ノ爲必要ナル吏員ノ設置及其ノ職務權限ニ關シテハ勅令ヲ以テ之ヲ定ム

第四章 道路ニ關スル費用及義務

第三十三條 主トシテ軍事ノ目的ヲ有スル國道其ノ他主務大臣ノ指定スル國道ノ新設又ハ改築ニ要スル費用ハ國庫ノ負擔トス第二十二條第二項ノ規定ニ依ル國道ノ新設又ハ改築ニ要スル費用ニ付亦同ジ

前項ニ規定スルモノヲ除クノ外道路ニ關スル費用ハ管理者タル行政廳ノ統轄スル公共團體ノ負擔トス但シ行政區劃ノ境界ニ係ル道路ニ關スル費用ノ負擔ニ付テハ關係行政廳ノ協議ニ依ル協議調ハザルトキハ主務大臣之ヲ決定ス

第二十條 第二項ノ規定ニ依ル國道ノ新設又ハ改築ニ要スル費用ハ命令ノ定ムル所ニ依リ管理者タル行政廳ノ統轄スル公共團體ヲシテ其ノ一部

道路ノ維持ニ要スル費用ハ管理者同條ノ下級行政廳ノ統轄スル公共團體又ハ同條ノ私人ヲシテ其ノ全部又ハ一部ヲ負擔セシムルコトヲ得

第三十九條 道路ニ關スル工事ニ因リ著シク利益ヲ受クル者アルトキハ管理者ハ其ノ者ヲシテ利益ヲ受クル限度ニ於テ道路ニ關スル工事ノ費用ノ一部ヲ負擔セシムルコトヲ得

第四十條 特ニ道路ヲ損傷スル原因ト爲ルベキ事業ヲ爲ス者アル場合ニ於テ管理者ハ之ガ爲ニ要スル道路ノ維持又ハ修繕ノ費用ノ一部ヲ其ノ事業者ニ負擔セシムルコトヲ得

第四十一條 道路ニ關スル工事ノ爲必要ヲ生ジタル他ノ工事ノ費用ハ管理者特別ノ事由アル場合ニ於テ他ノ工事ニ付費用ヲ負擔スル者ヲシテ其ノ全部又ハ一部ヲ負擔セシムル場合ヲ除クノ外道路ニ關スル工事ノ費用ヲ負擔スル者ヲシテ之ヲ負擔セシム

第四十二條 本法若ハ本法ニ基キテ發スル命令又ハ之ニ依リテ爲ス處分ニ依ル義務ヲ履行スル爲必要ナル費用ハ法令ニ別段ノ定アル場合ヲ除クノ外義務者ノ負擔トス

第四十三條 道路ニ關スル費用ノ負擔金ハ費用負擔者ガ道路ニ關スル工事ノ執行又ハ道路ノ維持ヲ爲ス場合ヲ除クノ外第三十三條第一項ノ主トシテ軍事ノ目的ヲ有スル國道其ノ他主務大臣ノ指定スル國道ノ新設又ハ改築ニ要スルモノニ在リテハ國庫、其ノ他ノモノニ在リテハ管理者タル行政廳ノ統轄スル公共團體ノ收入トス

前項ノ費用負擔者ガ公共團體ナル場合ニ於テ之ヲ統轄スル行政廳又ハ行政廳タル管理者ガ道路ニ關スル工事ノ執行又ハ道路ノ維持ヲ爲ストキハ前項ノ規定ノ適用ニ付テハ費用負擔者之ヲ爲スモノト看做ス

第四十一條 規定ニ依ル負擔金ハ前二項ノ例ニ依リ國庫又ハ公共團體ノ收入トス

第四十四條 道路ノ占用料其ノ他道路ヨリ生ズル收益ハ管理者タル行政廳ノ統轄スル公共團體ノ收入トス但シ第二十六條ノ規定ニ依リ許可又ハ承認ヲ得テ徵收スル橋錢又ハ渡錢ハ其ノ許可又ハ承認ヲ得タル者ノ收入トス

第四十五條 道路ニ關スル工事ノ爲必要アルトキハ管理者ハ沿道ノ土地ニ立入り又ハ其ノ土地ヲ

一時材料置場トシテ使用スルコトヲ得

前項ノ規定ニ依ル立入り又ハ使用ヲ爲サムトスルトキハ已ムヲ得ザル場合ヲ除クノ外豫メ土地ノ占有者ニ通知スルコトヲ要ス

第四十六條 非常災害ノ爲必要アルトキハ管理者ハ道路附近ニ居住スル者ヲ使役シ、道路附近ノ土地ヲ一時使用シ又ハ土石、竹木、其ノ他物品ヲ使用若ハ收用スルコトヲ得

第四十七條 前二條ノ規定ニ依ル立入り、使用、使役又ハ收用ニ因リ現ニ生ジタル損害ハ立入り、使用、使役又ハ收用ノ後三月内ニ管理者之ヲ補償スベシ

第四十八條 沿道ノ土地、竹木又ハ工作物ノ管理者ハ其ノ土地、竹木又ハ工作物ノ道路ニ及ボスベキ損害ヲ豫防スル爲必要ナル施設ヲ爲スベシ

第四十九條 道路ノ使用又ハ道路若ハ其ノ交通ノ保全ニ關スル規定ハ命令ヲ以テ之ヲ定ム沿道ノ土地ニ於ケル工作物ノ建設其ノ他ノ作爲又ハ不作爲ノ制限ニシテ道路又ハ其ノ交通ノ保全ノ目的ヲ以テスルモノニ付亦同ジ

第五十條 沿道ノ區域ハ管理者之ヲ定ム

第五章 監督及罰則

第五十一條 左ニ掲グル場合ニ於テハ管理者ハ本法若ハ本法ニ基キテ發スル命令ニ依リテ其ノ爲シタル許可承認ヲ取消シ其ノ効力ヲ停止シ若ハ其ノ條件ヲ變更シ、道路ニ存スル工作物其ノ他ノ物件ヲ改築除却セシメ若ハ之ニ因リテ生ズベキ損害ヲ豫防スル爲必要ナル施設ヲ爲サシメ又ハ原狀回復ヲ爲サシムルコトヲ得

一 道路ニ關スル法令ノ規定ニ違反シタルトキ

二 道路ニ關スル法令ノ規定ニ依ル許可又ハ承認ノ條件ニ違反シタルトキ

三 詐欺ノ手段ヲ以テ道路ニ關スル法令ノ規定ニ依ル許可ヲ得タルトキ

四 道路ニ關スル工事ノ爲必要アルトキ

五 公益上必要ト認ムルトキ

前項第五號ノ場合ニ於テ損害ヲ受ケタル者アルトキハ管理者ハ道路ニ關スル工事ノ費用ヲ負擔スル者ヲシテ其ノ損害ノ全部又ハ一部ヲ補償セシムルコトヲ得

前二項ノ規定ハ主務大臣ガ第二十九條ノ規定ニ依リテ其ノ爲シタル許可若ハ承認ヲ取消シ、其

ノ効力ヲ停止シ又ハ其ノ條件ヲ變更スル場合ニ之ヲ準用ス

第五十二條 左ニ掲グル事項又ハ其ノ變更廢止若ハ取消ハ第一號ニ在リテハ行政廳ニ於テ、其ノ他ニ在リテハ管理者ニ於テ監督官廳ノ認可ヲ受クベシ但シ主務大臣ハ輕易ナル事件ニ限り命令ヲ以テ認可ヲ受ケシメザルノ定ヲ爲スコトヲ得

一 國道以外ノ道路ノ路線ヲ認定スルコト

二 道路又ハ沿道ノ區域ヲ定ムルコト

三 道路ノ新設又ハ改築ヲ爲スコト

四 第二十一條乃至第二十三條ノ規定ニ依リ道路ニ關スル工事ヲ施行セシメ又ハ道路ノ維持ヲ爲サシムルコト

五 第二十四條又ハ第二十六條ノ規定ニ依ル許可又ハ承認ヲ爲スコト

六 第二十五條ノ規定ニ依リ他ノ工事ヲ執行スルコト

七 第二十七條ノ規定ニ依リ橋錢又ハ渡錢ヲ徵收スル橋梁又ハ渡船場ヲ設クルコト

八 第二十八條ノ規定ニ依リ道路ノ占用ヲ許可若ハ承認シ又ハ道路ノ占用料ヲ徵收スルコト

九 第三十七條乃至第四十一條ノ規定ニ依リ費用ヲ負擔セシムルコト
 十 前條第一項又ハ第二項ノ規定ニ依ル處分ヲ爲スコト

第五十三條 監督官廳ハ監督上必要ト認ムルトキハ前條ノ行政廳又ハ管理者ニ對シ前條各號ニ掲グル事項又ハ其ノ變更廢止若ハ取消ヲ命ジ其ノ他命令ヲ發シ又ハ處分ヲ爲スコトヲ得

第五十四條 行政執行法第五條及第六條ノ規定竝之ニ基キテ發スル命令ハ本法若ハ本法ニ基キテ發スル命令又ハ之ニ依リテ爲ス處分ニ依リテ爲ス處分ニ依リ行フベキ作爲又ハ不作爲ヲ管理者ガ強制スル場合ニ之ヲ準用ス

第五十五條 本法若ハ本法ニ基キテ發スル命令又ハ之ニ依リテ爲ス處分ニ依リ義務ニ屬スル負擔金、占用料、橋錢、渡錢其ノ他ノ費用ハ管理者國稅滯納處分ノ例ニ依リ之ヲ徵收スルコトヲ得前項ノ規定ニ依ル徵收金ノ先取特權ノ順位竝其ノ追徵還付及時效ニ付テハ管理者タル行政廳ノ統轄スル公共團體ノ徵收金ノ例ニ依ル

第五十六條 左ノ各號ノ一ニ該當スル者ハ三百圓

第五十八條 本法又ハ本法ニ基キテ發スル命令ニ規定シタル事項ニ付主務大臣又ハ管理者ノ爲シタル違法處分ニ因リ權利ヲ毀損セラレタリトスル者ハ行政裁判所ニ出訴スルコトヲ得

第五十九條 第四十七條ノ規定ニ依リ補償ヲ受クベキ者同條ノ規定スル期間内ニ其ノ決定ノ通知ヲ受ケタル場合ニ於テ補償ニ不服アルトキハ通知後六月内ニ、同條ノ規定スル期間内ニ其ノ決定ノ通知ヲ受ケザル場合ニ於テハ其ノ期間經過後六月内ニ通常裁判所ニ出訴スルコトヲ得此ノ場合ニ於テハ訴願シ又ハ行政裁判所ニ出訴スルコトヲ得ズ

第七章 雜則

第六十條 本法中府縣、府縣知事、府縣廳又ハ府縣道ニ關スル規定ハ北海道ニ付テハ道、道廳長官、道廳又ハ地方費道ニ關シ市、市長、市役所又ハ市道ニ關スル規定ハ北海道ニ付テハ區、區長、區役所又ハ區道ニ關シ郡役所ニ關スル規定ハ北海道ニ付テハ支廳、島ニ付テハ島廳ニ關シ之ヲ適用ス

第六十一條 北海道ニ付テハ道路ノ種類、等級及

以下ノ罰金又ハ科料ニ處ス
 一 許可ヲ得ズシテ道路若ハ其ノ附屬物ニ關スル工事ヲ執行シ又ハ道路若ハ其ノ附屬物ヲ占用シタル者

二 許可ヲ得ズシテ橋梁又ハ渡船場ノ使用ニ對シ橋錢、渡錢其ノ他ノ財物ノ交付ヲ請求シタル者

三 道路ノ使用ニ對シ路錢其ノ他ノ財物ノ交付ヲ請求シタル者

四 欺詐ノ手段ヲ以テ許可ヲ得タル者

五 正當ノ事由ナクシテ第四十六條ノ規定ニ依ル管理者ノ命ニ從ハザル者

六 第四十八條又ハ第二條及第四十八條ノ規定ニ違反シテ道路又ハ其ノ附屬物ニ及ボスベキ損害ヲ豫防スル爲必要ナル施設ヲ爲サザル者

第六章 訴願及訴訟

第五十七條 本法又ハ本法ニ基キテ發スル命令ニ規定シタル事項ニ付主務大臣又ハ管理者ノ爲シタル處分ニ不服アル者ハ訴願スルコトヲ得
 本法ニ依リ行政裁判所ニ出訴スルコトヲ得ル場合ニ於テハ主務大臣ニ訴願スルコトヲ得ズ

路線ノ認定竝第三十三條乃至第三十六條、第四十三條、第四十四條及第五十二條ノ規定ニ關シ勅令ヲ以テ特別ノ定ヲ爲スコトヲ得

第六十二條 道路ノ路線ノ認定ノ變更廢止其ノ他ノ場合ニ於テ不用ニ歸シタル道路及其ノ附屬物ヲ構成シタル物件竝材料器具機械等ノ管理及處分ニ付テハ勅令ヲ以テ特別ノ定ヲ爲スコトヲ得前項ノ變更廢止ノ場合ニ於テ道路及其ノ附屬物ヲ構成シタル物件ハ勅令ヲ以テ定ムル期間ノ滿了スル迄第六條ノ規定ヲ之ニ準用シ土地收用法中第六十六條ノ規定及之ヲ準用スル規定ノ適用ニ付テハ不用ニ歸セザルモノト看做ス

第六十三條 左ニ掲グル法令ノ規定ハ本法ニ依ル道路ニ關シ之ヲ適用セズ

- 一 明治四年十二月十四日布告治水修路架橋等運輸ノ便利ヲ興ス者ニ税金取立方許可ニ關スル件
- 二 明治十一年七月二十二日達郡區町村編制府縣會規則地方稅規則施行順序ニ關スル件第十項
- 三 明治十二年二月二十七日達河港道路堤防橋

- 梁費ヲ舊慣ニ因リ支辨シ得ル件
- 四 陸地測量標條例第二條
 - 五 水路測量標條例第二條
 - 六 電信線電話線建設條例第一條、第四條及第五條
 - 七 軍用電信法第四條第二項ノ規定ニ依リ準用スル電信線電話線建設條例第一條、第四條及第五條
 - 八 河川法第十條第二項、第十一條及第三十二條
 - 九 砂防法第八條及第十六條
 - 十 私設鐵道法第四十二條
 - 十一 輕便鐵道法第五條ノ規定ニ依リ準用スル私設鐵道法第四十二條
 - 十二 電氣事業法第九條
 - 十三 大正三年法律第三十七號
- 附則(略)

昭和十四年六月十四日印刷
昭和十四年六月十八日發行
昭和十四年八月二十五日再版

定價 壹圓五拾錢

電氣廳編纂
電氣事業法規

發行者 東京市麴町區有樂町一丁目三番地
社団法人 電氣協會代表者理事 增田 次郎

印刷者 東京市王子區神谷町一丁目四八二番地
松井 方利

印刷所 東京市王子區神谷町一丁目四八二番地
東京印刷株式會社

發行所 東京市麴町區有樂町一丁目三番地
社団法人 電氣協會

電話丸ノ内(23)二七八〇二七八一、二七八二
振替貯金口座東京一六一六六

不許
複製

明治十一年八月二十日

不
平

東京市

東京市

東京市

東京市

東京市

東京市

東京市

東京市

東京市

東京市

東京市

東京市

東京市

東京市

シセC-1

購入

2935

昭
14.9.28
和

540





